

NPO 法人日本リザルツ

平成27年度事業報告書



日本リザルツ 平成 28 年 3 月 21 日作成

1 月	
1 月 7 日	栄養 NGO ネットワークの新年初会合 2015 年初めての栄養 NGO ネットワークの会合が、日本リザルツオフィスで開催された。朝一番で東京大学大学院新領域創成科学研究科で農業関連の研究を進める松田浩敬教授と、同研究科で保健学の一環として栄養研究に従事する関山牧子特任助教授が、栄養 NGO ネットワーク会合を初めて訪れた。ワールド・ビジョン・ジャパンの皆様が、ルワンダの栄養プロジェクトの評価活動をお二人に委ねたことで親密になった経緯から、栄養アクションプランにもお手伝いいただきたいということでお招きした。NGO の栄養事業報告書などに興味を示していただき、色々な示唆をいただくなど栄養問題に関心の深い様子が窺えた。現在お二人で協働して、日本における過去からの栄養不良に関わる論文のデータベース化にチャレンジしているとのこと。そこで得た知見を活かしたいと心強いご表明をいただいた。お昼前には、ワールド・ビジョン・ジャパンの代表である片山信彦常務理事・事務局長とセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの千賀邦夫専務理事・事務局長が会合に加わり、最終的には白須を含め 3 団体代表で初めて、今後の栄養活動の長期戦略について話し合いを行った。 午後からは日本の国際保健における泰斗である東京大学医学部の渋谷健司教授に栄養 NGO 会合に初めてお越しいただき、先生が今、官庁や学界を総括してリードしているユニバーサル・ヘルズ・カバレッジ（UHC）に関わるグローバルワーキンググループと、栄養 NGO ネットワークの協働の在り方についても協議した。渋谷先生は UHC を実現する上での重要なファクターに栄養問題は欠かせないとして、個別のタスクなどで協働しようと提案された。
	タコづくりワークショップ リザルツでタコづくりワークショップが開かれた。ちょっと奇抜で、かなり個性的だが、きちんと 8 本足をもつ立派な 12 匹のタコちゃんたち。作り方を教えてくださったのは、木暮奈津子さんという新聞紙を使って海の生き物のオブジェを作っている作家の先生。 新聞紙にボンドを塗り、丸めて固めて、新聞紙 1～2 枚程度で簡単に作れる。釜石の特産わかめが描かれていたり、地球儀が描かれていたり、自由自在だからこそ、意外と奥が深い。新聞とボンドと絵具さえあれば出来る。 
1 月 13 日	釜石で冬休み特別企画を実施 釜石事務所では、釜石ママハウスさんの協力を得て、平田第 6 仮設 談話室で冬休み特別企画「世界への一步を踏み出そう」と題したイベントを開催した。2019 年のラグビーワールドカップ招致や、2020 年の東京オリンピックに先立ち、釜石が世界へ飛び出すための先駆けとして本企画を実施した。今後の方向性を探る上での試験的な実施という意味合いもあり、広く広報することがなかったにも関わらず、スタッフ含め 15 人程度が参加した。その半数以上が冬休み中の子どもたちだった。これまで訪れた韓国や台湾、フィリピン、ベトナム、インド、ケニア、マラウイ等の写真やビデオを 100 枚ほどのスライドにし、たっぷりと各国の様子を紹介した。
	臨時理事会を開催 日本リザルツオフィスで臨時理事会を開催した。最近のリザルツの活動において会計規定の整備などに関して決議する必要があるために、年始早々に各理事に急遽お声掛けした。急な連絡だったにもかかわらず、当日は 7 名の理事がご出席され、事務局からの説明の上で滞りなく決議された。
1 月 15 日	マイクロファイナンス活動調査 マイクロファイナンス関係で、日本リザルツオフィスにも多くの方が訪れるようになった。

	一人目は明治大学の小関隆志準教授で1月9日にオフィスにお越しになった。小関先生は、2011年から今年まで先進国のマイクロファイナンスを研究するプロジェクトがあり、アメリカや韓国などにも長期滞在して調査活動を行っていた。日本においても福祉貸付の問題点など細かいことにまで精通しており、調査に回答するはずだったのに、逆にこちらから伺うことの方が多く面談となった。日本 NPO センターの今田克司常務理事と椎野修平特別研究員がくたちマイクロファイナンスのことを聞きたいということで来訪された。某金融機関が日本での金融包摂（きんゆうほうせつ、あらゆる人々へ適切な金融サービスが行き渡ること）の可能性について色々と調査しているようで、小関先生も含めて一連のご来訪の背景にはそのような事情も一端としてあるようだった。小関先生も、今田さんご一行も日本の貧困格差が拡大する中で福祉型アプローチを重視するくたちマイクロファイナンスの方向性についてはすぐにニーズなどを理解して下さり、今田さんは面談の最後に、今後の発展に寄与できるように依頼元に内容をご報告いただけたとのことだった。
1月16日－17日	白須出張報告①～沖縄編：日経アジア感染症会議～ 代表の白須が第2回日経アジア感染症会議に参加した。2000年のG8九州・沖縄サミットで『沖縄感染症対策イニシアティブ』が採択されたこともあり、沖縄は日本の感染症対策に縁のある場所。会場の万国津梁館もかつての沖縄サミットの会場。第1回会議は昨年2月に開催され、日本やアジアの国々また官民が一体となり国際的な感染症対策に貢献していくことが合意されて『沖縄感染症ステートメント 2014』が発表された。今回の第2回会議では、それをもとに具体的なアクションプランを立てることが目的とされ、各界からさまざまな方が参加された。そしてさまざまな感染症の中でも特に「結核」と「エボラ」が集中的に議論され、特に結核は、日本の優れた技術について具体的な名称も挙げた。結核診断法のTB-LAMP法（栄研化学株式会社）については、WHOや世界基金との連携も含めた世界的普及、新抗結核薬のデラマニド（大塚製薬株式会社）については、最も効果的な使用方法についての研究、また、さらなる新薬の開発を目指すこと、ワクチンについては、医薬基盤研究所の保富康宏先生や株式会社クワイエットワクチン、結核ワクチン開発を支援する世界的NGOのAerasなどが進める、組み換えヒトパラインフルエンザ2型ウイルスベクターを用いた新規結核ワクチンの開発、これらを官民一体となって強力に支援していくことなどが決議された。さらに、現在結核ワクチンの臨床研究施設は南アフリカにしかないが、上記ワクチンの開発が進んでいること等も踏まえ、日本とアジアに臨床の拠点を作っていく、ということも宣言された。
1月22日	釜石地域まちづくり連絡会議 毎月第2・4木曜日に開催されている「釜石地域まちづくり連絡会議」に参加した。日本リザルツからは、現在進めているパレスチナ・ガザ地区と釜石の合同風揚げ企画について報告した。いろんな側面からご協力いただけた団体さんとの出会いもあり、小さなリザルツ釜石事務所だけでは到底実現できない、大きなイベントに発展させていく。



	マイクロファイナンス／松本洋平内閣大臣政務官との面談 内閣府大臣政務官の松本洋平衆議院議員に、くにたちマイクロファイナンスについてご説明のため訪問した。鰐部、鈴木、戸木の3名で夫々説明と意見などをお伝えすると、松本先生は「金融の世界にもいたので興味深いです。確かに難しい面があるかもしれないけど、とても意義が深い試みだと思います。できるかぎり応援しますので頑張ってください。ぜひ私の地元である国立からこのような試みが花咲くと良いですね。」と仰り、佐藤市長にもくにたちマイクロファイナンスについて話してみると話された。松本先生は、親子の面会交流の活動にも以前から深い理解があり、鈴木と確りとしたパイプがあったことも今回の面談が弾んだ大きな要因だった。ところでそれに先立つこと、1月19日に、くにたち夢ファームのメンバーが集まり、まずはNPO法人を設立することで皆さんの意志が固まった。まずは経済的な自立支援などの事業を行うNPO法人の設立手続きを行って、併せてNPOバンクの組織を別に立ち上げていくことになった。	 
1月19日－22日	白須出張報告②～フィリピン・マニラ編～ 1月19日より、白須はフィリピンのマニラへ出張した。マニラではゴミ捨て場にゴミ山ができ、その周辺がスラムとなって多くの貧しい人々が生活している。そうした地域では生活環境も栄養状態も悪く、結核などの感染症も蔓延している。今回もそうした地域の調査や支援のために滞在した。マニラのトンド地区のゴミ捨て場スモーキーマウンテンにて、バラングイスモーキーマウンテンの協力の元、現地のクリスティーナさんと合計3600世帯（昨日は600世帯、本日は3000世帯）にお米を配布した。 マニラ活動報告 結核、ワクチン、栄養に関連する事業のために、沖縄～マニラ～ベルリン～ケープタウンを回った3週間にわたる長旅の途中、日本リザルツの最強パートナー木下さんから、白須と木下さんのマニラ活動報告のまとめブログが届いた。 1月19日の夜、私と白須代表はフィリピンのマニラ国際空港で合流した。白須代表の渡比の目的はスモーキーマウンテンで暮らす人々への支援物資の配給及び感染症の実態調査。翌1月20日の朝、私たちはフィリピンマニラのゴミ捨て場スモーキーマウンテンにおける永住住宅のバラングイ（フィリピンにおける最小単位の行政自治区）を訪れた。ここに住む80%の人々は、住居を与えられても雇用がないマニラでは生活ができず、現在もすぐ近くに場所を移したアロマゴミ捨て場でゴミを拾って生活している。私たちは、スモーキーマウンテンに住む人々の現状、今回の支援物資配布の対象となる世帯数などをヒヤリングした。フィリピンで超多剤耐性結核から回復したミルドレッド・フェルナンドさんの話などしながら、スモーキーマウンテンでの結核の状況なども聞いた。 当初、私たちは小学生の子供達に文房具を配布しようと検討していたが、バラングイスタッフの方々と何が今一番求められているのかディスカッションする中で、結局のところ米が一番喜ばれるという答えに辿り着き、	  

	文房具から米の配給支援に予定を切り替えた。早速私たちは米問屋を数件回り、品質や相場を調べ、粘り強く条件や価格の交渉をし、最後には現地の人からも安いと驚かれる価格と条件で交渉が成立した。 1月22日、1回目の米配布は、配布対象の3600世帯のうち、政府が用意した永住住宅には住んでいない近隣のスラムの人々600世帯に配布した。米配布の傍ら白須代表はひたすら、いつもの現地ドライバーとともに、集まった人や周辺の人々から結核や栄養の情報収集に走り回っていた。 翌日の1月23日、2回目の米配布は3000世帯の永住住宅の住人への配布。バランガイスマーキーマウンテンの職員の方々が中心となつての配布だったので、事前準備やオペレーションは完ぺきだった。3000世帯への配布時間は長時間に渡り、本当に大変だった。
1月26日	市民ネットワーク for TICAD の定例会@日本リザルツオフィス 市民ネットワーク for TICAD のメンバーが定例会でリザルツ会議室に集合された。加盟している NGO 団体の方達 20 名近くが長く討論を続けた。グループの報告によると、次の TICAD VI は 2016 年にアフリカで開催されることにほぼ決まったようだ。
1月28日	Gavi ワクチンアライアンス第 2 回増資会合 1月27日、ドイツのベルリンでメルケル首相のホストのもと、Gavi ワクチンアライアンスの増資会合が開催された。今回の第 2 回増資会合では、新たに 3 億人の子どもに予防接種をし、500-600 万人の命を救うという Gavi の 2016-2020 年の計画に対する拠出誓約が行われた。Gavi は 2000 年に設立され、これまでに 5 億人近い子どもたちにワクチンを提供し、600 万人の命を救ってきた。 予防接種は最も費用対効果の高い保健介入策ともいわれ、世界的に非常に高く評価されている。2011-2020 年計画により、貧しい国の子どもたちが健康な大人に成長できるだけでなく、それによって生産性の向上や医療費の縮小が見込まれ、800-1000 億ドルの経済効果があると言われている。第 1 回目の増資会合は、2011 年 6 月に開かれ、日本はこのときに初めてドナー国の仲間入りをした。以来、世界の主要国は Gavi の活動を支え、特に主要 7 か国（G7）は、昨年のサミットにおいて、各国が Gavi の第 2 回増資に向けて貢献するという約束を出した。ところが、G7 の日本以外の国が 2016-2020 年に向けて高額のプレッジ（拠出誓約）を発表する中、日本だけが 1 円も拠出誓約を発表しなかった。アジアの他の国を見ると、中国が初めて拠出誓約を出し、大いに注目された。中国はかつて 2006 年まで Gavi のワクチン支援を受けていた“Gavi 卒業国”。また、お隣の韓国も拠出誓約を表明している。 当日 Gavi から発表された、各国の拠出誓約額を記した表には、Japan の名前さえもない。世界有数の先進国として、G7 の一国として、この不名誉を一刻も早く挽回し、ふさわしい額のプレッジを発表してくれることを心から願っている。各国に Gavi への貢献を強く呼び掛けていたメルケル首相の意志を、果たして日本は継いでくれるのか。こうした状況は世界のメディアでも大きく報じられており、英フィナンシャルタイムズでも日本が期待以下だったと酷評されている。 
1月27日	Gavi キャンペーン議員室行脚 Gavi ワクチンアライアンス第 2 回増資会議がドイツ・ベルリンで開催され 2016 年から 2020 年の 5 年間の拠出金について話し合われた。見事目標の総額 75 億ドルの拠出が誓約された。今回主催者のドイツ、メルケル首相の強力な働き掛けのおかげだろう。会議直前まで数百億円不足していたにも関わらず見事。今回日本からは外務省国際保健政策室の山谷室長が出席。残念ながら、日本からの誓約はなし。会議終了後に出された速報では拠出国・団体のリストにも日本の 

	文字はない。日本以外の G7 加盟国やノルウェー、オーストラリア、スウェーデンなどはそれぞれ巨額な金額を誓約。ビルゲイツ財団（ビル＆メリンダゲイツ財団）は 15 億ドル。これまで、拠出金の援助を受けていた中国が少額（500 万ドル）ではあるが初拠出。多国間での支援姿勢は見事！ いつもの事ながら、日本は学ぶところが多いのでは？と言う事で、1 月初めから行っている Gavi キャンペーンに、最新の資料を揃え議員先生方へ行脚。今年の G7 へ向かって、予算確保のお願いプッシュの日々が続く。
--	--

2 月	
1 月 31 日 - 2 月 6 日	Results/ACTION パートナー会議 1 月 31 日より、南アフリカのケープタウンで ACTION パートナー会議が行われた。ACTION パートナースhip は、米国、英国、カナダ、オーストラリア、日本の RESULTS と、フランスとインドの Global Health Advocates、ケニアの KANCO、ザンビアの CITAM+ などからなり、日頃から協同して結核、ワクチン、栄養、子どもの保健などのアドボカシーを行う仲間たち。 今年から、南アフリカのプリンセス・オブ・アフリカ財団も仲間入りし、以前から日本をはじめ様々な RESULTS/ACTION の活動に協力してくれていたイボンヌ・チャカチャカ（同財団代表）も正式に ACTION メンバーになった。 1 月 31 日～2 月 2 日は、RESULTS や ACTION の各国代表だけが集まるディレクター会合が行われた。 2 月 3 日からは、ディレクター以外のスタッフも参加し、全体会合が始まった。丸テーブルに分かれて座り、グループごとに話し合いをし、最後にまとめて発表し合う形式が多く採られた。 初日ということで、2014 年の成果、今後の課題などが話し合われた。ほとんどの国は、Gavi の増資に向けて、各国が大きな成果を挙げたと盛り上がっていた。日本からは、ストップ結核ジャパンアクションプランが改定され、それが国の指針に明記されたこと、Gavi の増資でプレッジを出すことができなかったで、引き続き全力で取り組んでいること、栄養について、他団体と協力していることなどを紹介した。 午後は、MDGs 期限を迎え、ポスト MDGs、ポスト 2015 が議論される今、子どもの死亡率 RMNCAH (Reproductive, Maternal, Newborn, Child and Adolescent Health/妊産婦、新生児、小児、青年の保健)の向上のために、世界銀行が新たに設立した Global Financing Facility (GFF) についての話し合いもあった。 ミレニアム開発目標の MDG4（乳幼児死亡率の削減）および MDG5（妊産婦の健康改善）について、大きな成果は出ているものの、いまだ、弱い立場に置かれることが多い子どもや女性の保健サービスへのアクセスなどは限られている。 ACTION も、子どもの健康という課題を、ワクチンや栄養などさまざまな要素を孕む複合的な課題として捉えて活動している。 会議 3 日目(スタッフ初日) 新しいメンバーも多く皆の自己紹介からスタートした。ACTION の昨年の成果実績・チャレンジ・課題などについて意見交換した。直近の Gavi ワクチンアライアンスの増資会議での結果は大きな成果として上がった。初日のディレクター会議の内容についての報告で、2015 年の問題や課題の発表が Results UK



代表の Aaron Oxley よりなされた。

現在抱えるの大きな課題は、TB(結核)、チャイルドヘルス、栄養である。

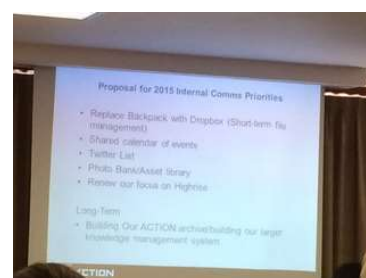
午後には下記のグループに別れ討議。

1) 世界基金と結核-ACTION がどう世界基金と絡んで行くか

2) チャイルドヘルス-ワクチン・栄養など含んで広く子供の健康に取り組むか。後半は、 Joanne Carter により GFF(Global Financing Facility) の妊婦関連の救済について、今後世界基金にどう働き掛けていくか、今年の課題と日程について指示があった。栄養や他の課題とどう分けて政策提案して行くか、また各団体がリソースの不足を抱えている中どう動けるか課題が多い。

会議 4 日目(スタッフ 2 日目)

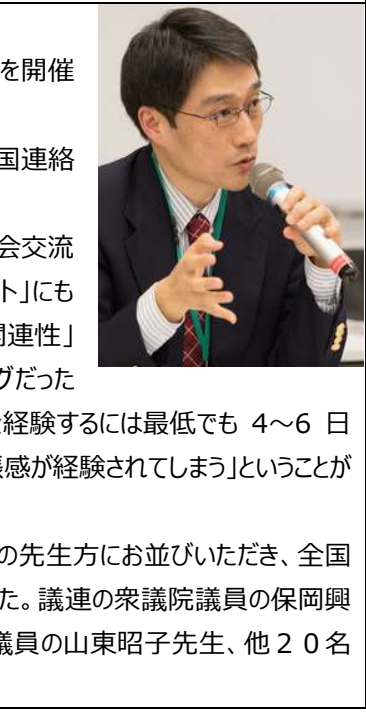
まずは、ACTION に係るメンバー(団体)間のパートナーシップについて、どう連絡をとりあい一緒に活動していくか。チャイルドヘルス、TB、栄養の 3 グループに別れグループディスカッション。2 つの成功例をあげ、どうだったか深く掘り下げた。チャイルドヘルスは、Gavi の増資から話題が抜けずそれに特化。続いて、インターナルでのコミュニケーションについて。情報を共有すること、目標を再確認する。毎週 1 テーマ毎で、短時間で運営できるようにアジェンダの準備など、どう運営していくか意見交換。その後、課題毎に 3 つのグループで。わたしのグループは、ミドルインカム国(MIC)が拠出金のドナー国なるに当たっての課題について協議した。結論として、ローインカム(LIC)から MIC に認定する為の基準作りで、公的で、公平な基準について調査が必要で、ボランティアで上がったメンバーで調査作業を進めていき、モニターの方法や基準作りをしていく事になった。この日の最終セッションでは、また 3 つのグループで行った。わたしは、ワクチンのセッションへ。Gavi コミッティーの重要なメンバーになって、Gavi の資金のサポート先(国)や内容などの決定により関わることの重要性、日本に対して Gavi への拠出貢献へのプレッシャーを与える事の可能性など 意見交換した。



ACTION Partner ミーティング最終日(2 月 6 日)

9 時から 3 グループ(ODA, アドボカシー、草の根活動)のスキルビルディングのセッション。身近な関係から話をしていく事に話題が集中した。寄付を募っていくのはいい方法である事は皆同感。SDG(sustainable development goal) 主に資金確保と資金の有効活用の意見交換セッション。2 日前に話し合った話題の LIC(Low Income Country) から MIC(Middle Income Country) の認定及びその条件制定などの必要性を再認識した。午後は、TB, チャイルドヘルス・ワクチン、栄養に分かれそれぞれ最終課題とアクションのまとめ。チャイルドヘルス・ワクチン チームは、WHA (WHO に対する意見発進組織)、Gavi の統制運営、Gavi の戦略について、課題とアクションをまとめた。ディレクター会議で内容合わせ、ACTION Partner として最終的にまとめたものは、7 月の international conference 後にリリースされる予定である。昨年の功績や、今回のケープタウンでの会合の準備などに汗を流したメンバーに対しての各アワードの発表の後、イボンヌ・チャカチャカのスピーチで締めくくった。彼女のスピーチでは、生い立ちから現在に至るまでのストーリーは勿論、昨年の日本訪問での話しで皆の大きな話題を誘った。着物、渋谷の電光掲示板、何処に行っても気落ちせず、動じない白須代表の話で盛り上がった。われらが、日本リザルツの最功労者白須代表、新里が Award(表彰) を受けた。



2月10日	つなみ募金 毎月恒例のつなみ募金を実施した。募金は 2011 年に起きたハイチ地震の被災者や最近では昨年 8 月の紛争で大きく傷ついたガザの復興のためにも行っている。知り合いの方が偶々通りかかり、さりげなく寄付をいただいた。来月は被災地岩手県釜石市などでガザの人達との心の触れ合いに向けた風揚げ大会を行う予定だ。	
2月13日	姫井由美子理事を囲む会に出席 日本リザルツ理事も務める姫井由美子さんのお誕生会があり、代表の白須とともに参加した。株式会社ジェイ・ピートレーディングの五十嵐隆博社長、篠原美夏さんと株式会社エコレグループ木下優社長も同行された。囲む会には 200 名を超える人達が参加。書道家のご友人の大胆なパフォーマンスの後、姫井理事から現在の心境などの述懐があり、今後の抱負についても語られた。 その後は先日、シリアで非業の死を遂げた後藤健二さんと仕事で関係があった Kweather Japan 株式会社の上西範久社長の講演。上西さんはもともと東芝の技術者だったが、社会貢献のできるものづくりを求めて退職。どんなところでも活動できる特性ソーラーバッグなどを開発した際に、後藤健二さんと巡り合い、一緒に仕事をされるようになったそう。子どもの人身売買がひどかったモルドバで一緒に関わったエピソードなどを披露いただいた。後藤さんはいつでも置き去りにされている人達に寄り添っていたことを改めて感じさせる内容だった。 ベナン国駐日特命全権大使のゾマホン・ルフインさんも、姫井理事とは実に親しい間柄で、この日はお祝いに駆けつけてくれた。姫井さんのご友人である高知の音楽グループ「豆電球」のライブ演奏で突如、「ゾマホン万歳」という曲がハプニングで披露されたら大変興奮されていた。その後、日本リザルツと仲間達も壇上に上がり、ご挨拶させていただき、白須と一緒に向かった姫井理事のハイチでのお話とともにフィリピンの活動も簡単にご紹介した。	
2月19日	「子どもの最善の利益」勉強会 衆議院第一議員会館内大会議室にて「子どもの最善の利益」勉強会を開催した。 この勉強会は、「親子断絶防止 議員連盟」と「親子断絶防止法 全国連絡会」との共催で、2014 年 2 月 20 日にも同じ会場で勉強会を行った。 今回は、大正大学人間学部臨床心理学科教授の青木聡先生に「面会交流と子どもの最善の利益」についてお話しいただいた。「りこちゃんリーフレット」にも掲載させていただいている「子育ての時間と子どもの情緒的安心感の関連性」についてのお話は、国会議員の先生方も会場全体もとりわけショッキングだったようであった。このグラフには「子どもが別居親との関係に情緒的安心感を経験するには最低でも 4～6 日の面会交流が必要で、月に 1～3 日の面会交流だけでは、むしろ緊張感が経験されてしまう」ということが示されている。ゆえに、隔週 2 泊 3 日が必要。 勉強会の最後には、勉強会の最後までお付き合いくださった国会議員の先生方にお並びいただき、全国連絡会からの「要望書」を再度、議連会長の保岡興治先生にお渡しした。議連の衆議院議員の保岡興治先生、馳浩先生、牧原秀樹先生はじめ、工藤彰三先生、参議院議員の山東昭子先生、他 20 名程の先生方や、秘書の方々にご参加いただいた。	

2月20日

南アフリカヘルスケアの現場視察

南アフリカで RESULTS/ACTION パートナー会議が開催された。

1) Africa Tikkun (NGO) 事務所訪問

結核患者や HIV 陽性者のサポートをする団体のオフィス。ケープタウン中心から 20 キロほど西にあるカロード（混血）と黒人が混合した居住区 Delft（デルフト）の中にあるマンデラ平和公園にオフィスがある。コミュニティ・ケアワーカーを動員し、患者の家庭訪問を行っている。現在ケアワーカー35人で2000人の患者を担当しているそうだが、患者さんにとって、医師には言いにくいことも話せるよき相談相手にもなっているそうだ。

ただ、結核や HIV に対するスティグマ（差別）は根強く、近所の人目を気にして家の中に入るまでマスクをしないでくれと言われることもあるよう。その一方、地域の生活は極度の貧困であり、結核であれば生活保護の補助金もらえるのでわざと治療を完了せず、再発と小康状態を繰り返して 12 年も通院している結核患者もいるとのこと。補助金が食費や家族を養うための収入源となっているケースもあるという。



2) TB/HIV Care Association (NGO) が運用するコミュニティヘルスセンター

クロスロードという黒人居住区のヘルスセンターを訪れた。

病院としてはレベル 2 で、総合病院ではないものの全般的な施設があり、特に結核と子どもの ART（HIV 治療）に重点を置いているそう。一日 300 人くらいの患者さんが訪れるそうで、症状が軽い人は翌日に診察を回されることも。ここでも結核や HIV へのスティグマはあるため、ケアワーカーは患者の家に限らず、あらゆる家庭を訪問し、分からないようにしている。男性には性感染症、女性には家族計画やワクチンなど、どの家庭にも保健教育は重要である。



3) MSF Khayelitsha (NGO 国境なき医師団 カイリーシャ事務所) と結核クリニック

カイリーシャは、ケープタウンから 40 キロほど北東の町で、国内で最も結核有病率が高い地域の一つ。特に薬剤耐性結核（DR-TB）の感染率が非常に高い。薬剤感受性の結核の治療期間が約 6 ヶ月であるのに対し、薬剤耐性結核の治療期間は 2 年。その間毎日（土日以外）病院へ行き、薬をもらったりお尻に痛い注射を受けたりしなければならない。しかも、治療開始後半年ほどで患者の体調はだいぶ改善されるので、その時点で治療に来なくなるケースも多いのが問題。クリニックのコミュニティケアボランティアが治療を中断しないようにフォローしているものの、さらに耐性が強い超他剤耐性結核（XDR-TB）になってしまうこともあった。そのため耐性の強い結核に対応するための新たな治療薬が強く求められていた。

ジョンソン & ジョンソンが開発したベダキリンについては、承認前の例外的使用が認められ、多くの患者さんの命を救った上、南アフリカ政府の認可を受けるまでになった。一方で、認可された途端、製薬企業から薬を高額で購入することが求められるようになり、これまで治療を受けていた患者が使用できなくなるという問題を抱えている。薬の選択肢は多いほど良く、大塚製薬が開発したデラマニドについても、できるだけ早く使用できるようになってほしいと MSF の担当者が話していた。南アフリカは、HIV 陽性者も多いが、その多くが結核と二重感染しており、結核の優先度は高いとのこと。



2月22日	食料物資配布プロジェクトに参加 以前にフィリピンの活動報告を投稿していただいた（株）エコレグループの木下優社長がビジネスの仲間達と行った、生活困窮者に向けた食料物資配布のボランティア活動に参加した。本件は、とある取引先より社会貢献として食品を提供する意向をいただいた木下さんのご友人が、木下さんに連絡。その際、木下社長がフィリピン滞在中に一緒だった代表白須がコンタクト先の仲介などをサポートし、最終的に府中緊急派遣村の松野哲二村長に辿り着き、三多摩地区を中心とした、生活困窮者支援団体や施設に配られることになった。今回の受取窓口である松野哲二さんは、2008 年末の年越し派遣村に感銘し、府中緊急派遣村を立ち上げ、それ以来ずっとボランティアでホームレスや生活困窮者の生活支援を行っているとか。食料は水、缶詰、アルファ米、乾燥したきんぴらごぼう、切り干し大根など沢山。府中市役所の生活困窮者支援に使うとともに、府中緊急派遣村に一旦置いて、その後、狛江、多摩など近隣市の生活困窮者支援団体の関係者に連絡して送る。また、一部は三鷹の保育園経由で都内のホームレス支援団体にも送られるとのこと。		
2月23日	「ガザ写真展」 「ガザと日本をつなぐ大空に 揚がれ！希望の凧！」イベント第1弾「ガザ写真展」が、釜石市昭和園クラブハウス開催された。 日本から遠く離れたパレスチナ・ガザ地区。 東日本大震災で被災された方々を想い、毎年3月に凧揚げを行っている。紛争地で生きるガザの子どもたちが、日本に送り続けてくれているエールをより多くの方々に知って頂きたいとの思いから、このイベントが実現した。（赤い羽根共同募金より助成いただいた。） 初日は、会場となった昭和園クラブハウスでの行事に参加された方を中心に、30 名程の方々が立ち寄った。国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の清田明宏保健局長によるガザ現地レポートを見て、戦闘に傷ついた街、人、社会を知り、それでも日本を応援してくれているガザの人々に、「ありがとう」と伝えたいの声をいただいた。 写真展の最後に、2013年3月11日に、私が撮影した釜石の写真を印刷した台紙に、ガザの子どもたちへのメッセージを皆さんに寄せ書きしていただいた。この寄せ書きは大切にガザに届けられ、3月9日、凧となってガザの大空に揚がる。そして、3月8日（日）に釜石で行われる凧揚げ大会のことも出口で宣伝した。		

2月24日	逢沢一郎先生訪問 国家基本政策委員長室に於いて、UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）の清田明宏保健局長と一般社団法人日本二輪自動車推進協会の五十嵐隆博代表とともに逢沢一郎衆議院議員と面会させていただいた。清田先生は、秩父宮妃記念結核予防功労賞を受賞されることになり、26日、27日に福岡で開催される結核予防会の全国大会への出席のために来日。日本パレスチナ友好議員連盟としてもUNRWAをご支援くださっている逢沢先生に、清田先生から近況報告などを行った。また、UNRWAと日本リザルツで3月8日と9日に企画している、パレスチナ・ガザ地区と釜石の合同凧揚げ大会及び交流会についてもお話した。続いて、ワクチン予防議員連盟副会長でいらっしゃる先生に、Gavi ワクチンアライアンスへのご支援をお願いした。子どもたちの命を守ることの大切さは、UNRWAのような難民支援の場でも、ワクチンを提供するGaviでも同じ。予防接種には関心の高いはずの日本なのに、なぜGaviへの支援が足りないのか、逢沢先生も清田先生も一致して疑問に思われていた。Gaviへの関心もさらに高く持ってもらえるよう、引き続きアドボカシーを続けていく。最後に、オートバイ議員連盟の会長でもいらっしゃる逢沢先生に、五十嵐代表のオートバイ関連の事業のご紹介を行った。昨年、宮城県栗原市と災害時支援協定を結んだこと（協定は株式会社ジェイ・ピートレーディングとして）や、一昨年のフィリピン・レイテ島の台風支援のための「ボカリスエット&ハーレープロジェクト」の話などをした。	 
---------------------	--	---

3月		
3月3日	「ガザ写真展」最終日 釜石市の昭和園クラブハウスで2月23日より開催していた「ガザ写真展」は無事最終日を迎えた。多くの方にご来場いただき、会場では、多くの出会いもあり、たくさんのあたたかいお言葉もいただいた。3月9日月曜日、釜石の皆さまからいただいたメッセージは、ガザまで届けられ凧となってガザの大空に揚げた。そして、3月8日日曜日は、平田公園野球場グラウンドにて凧揚げ大会が開催され、写真展でご好評いただいたガザの子どもたちの凧揚げ写真を展示するコーナーも設けた。	
3月4日	Gavi 北島さん来日とアドボカシー Gavi ワクチンアライアンスの北島千佳資金調達担当上級マネージャーが来日した。1月にG7議長国としてドイツ・メルケル首相が議長を務め、Gavi 増資会合が開催されたが、G7で唯一日本だけが抛出誓約の発表なし。メルケル首相が来日し、6月にはG7サミットも控えている状況下、日々Gavi アドボカシーを行っている。3月2日にはGaviに関する記事「ワクチン支援表明せず 日本、G7で唯一 国際社会から非難も」が共同通信から発信された。さらに、この記事に掲載した新聞は北は北海道新聞から、南は沖縄タイムズまで40社以上ある。日本全国あちこちで、G7として唯一日本が抛出表明しなかった事態が大注目されている。	
3月5日	釜石各地で凧作り 釜石各地で凧作りが行われた。学校のあと、子どもたちが集まる「放課後子ども教室」。釜石では、ばしよまえ、双葉、小佐野、甲子第6仮設の4カ所で、凧作りを行った。「凧作り」とは言っても、すでに凧の形をした無地の和凧を使ったので、その無地の凧を絵やメッセージで飾り付け。はじめは面倒くさそうにしていた子どもたちも、ひとり、またひとりと増え	

	て、最後にはみんな楽しそうに絵をかいていた。 凧揚げのイベントのパンフレットを国会議員の方々に配布 日本リザルトと UNRWA(国際連合パレスチナ難民救済事業機関)の共催で開催されるパレスチナ・ガザ地区と岩手県釜石市とで行われる凧揚げのイベントのパンフレット・チラシ・新聞などを国会議員の方々に配布した。釜石とガザで、それぞれ 1 0 0 0 名程の子どもが参加する予定。このたびの「ガザ・釜石合同凧揚げ大会及び交流会」には、51 団体のご後援と 3 団体のご協力をいただいた。	
3 月 7 日	釜石「凧揚げ大会」前日 翌日の凧揚げ大会の準備を行った。場所は、釜石市平田(へいた)公園野球場、あいにく曇って明日の天気が気になる中の作業となった。主催のリザルト側は 3 名。東京からボランティアとして応援参加して頂いた佐藤さん含めて 4 名。事前に各方面にボランティアの呼びかけをするも、ただでさえ慌ただしい 3 月。釜石も 11 日の前後は各種イベントが色々な会場で催され、中学生高校生も学生は期末テスト、それに就職活動の学生、誰もが忙しくなかなか集まらない。平田公園野球場の助っ人は球場管理人の遠藤さん、以前からリザルトがお世話になっていた木下さんのお二人のおかげで時間内になんとか準備完了。運搬・搬入の数、倉庫からの搬出・テントの組み立て、ポスター準備、調理場準備、写真展等々。特に遠藤さん、駐車場の白線引き、グラウンドの案内表示、テント・机・椅子・スピーチ台・釜石市垂れ幕はじめ、ありとあらゆる物をお貸し頂き、写真展の飾りの工夫にも色々助けて頂いた。多くの企業様からご寄付も頂いた。	
3 月 8 日	釜石「凧揚げ大会」報告① 早朝に小雨が降り、あいにくの曇り空だったが、何とかイベントが終わるまで持ちこたえてくれた。それでも 9 時の開会式までに、釜石の子どもたちとその家族、約 100 名がグラウンドに集まった。 その後、徐々に人は集まり、会場となった平田公園野球場の球場スタンドから見物される方や球場内の建物の中から、元気に凧を揚げる子どもたちを見ている方などもおり、炊き出しを行う頃には約 250 名程が集まった。イベント終了間際には、うわさを聞きつけた周辺住民の方なども立ち寄り、たくさんの方の交流の場となった。 企業の皆さまからいただいた品の数々は、ご来場の皆さんに大変喜んでいただいた。その他、会場準備や炊き出し、凧作り補助など、多くの住民や団体スタッフなどにもご協力いただき、総勢約 350 名程の皆さまにお越しいただいた。 そして、震災から 4 年目を迎えるにあたっての各種イベントや行事、また、仮設住宅で暮らす人々のための復興公営住宅が完成する中、その部屋決め抽選会などで大変忙しい野田武則釜石市長が足を運んでくださり、また、別のイベントでお忙しい中、平田第 6 仮設の森谷勲自治会長も顔を出して下さいました。 朝からずっとグラウンドを元気に走り続けていた子どもたち。平田と唐丹地区の野球チームの子どもたちは、凧揚げイベント後、さらに数時間野球の練習をしていた。	 

釜石「凧揚げ大会」報告②

ガザと釜石合同で凧揚げ交流を行う「ガザと日本の大空に揚げれ！希望の凧」企画第2弾。

前日は、野球場の屋内部分の飾り付けや、外看板や各種サイン、バナー作りなどの準備を行った。バナーなどは、雨露の心配があったため、当日の朝取り付けを行った。

凧揚げ大会の会場となった平田公園野球場グラウンドを管理している遠藤さんには、7時に鍵を開けてくださいとお願いしていたが、6時過ぎに到着したときには、すでに駐車場のライン引きなど、準備を始めてくださっていた。

イベント開始時間の9時の開会式。みんな早く凧を揚げたくて、我慢できない様子。元釜石市教育長で、現釜石市体育協会副会長の河東眞澄さんにご挨拶いただき、子ども代表の難波優斗くんから、凧揚げ大会開始宣言をいただいた。

球場の屋内通路では、写真展で紹介した写真パネルを展示した。寒い中、足を運んでくださった皆さんに、温かい炊き出しも行った。本日のメニューは、地元釜石の「わかめ」と「めかぶ」をふんだんに載せた、そばとうどん。その他、多くの方々にお手伝いいただき、こうして「凧揚げ大会」は無事大成功で終える事ができた。



パレスチナの子どもたちから日本の子どもたちへのお手紙

3月8日に釜石で行われた凧揚げ大会に向けて、パレスチナ・ガザ地区の子どもたちよりいただいたお手紙。この手紙は、凧揚げ大会開会式にて紹介させていただいた。

日本の子どもたちへ

私たち、パレスチナのガザの子どもたちより、心を込めてお便りいたします。

2011年に起きた東日本大震災を想い、今日、私たちは皆さんに知っていただきたいことがあります。私たちは、皆さんの応援団であり、皆さんの心に寄り添っています。

震災はきつとつらいできごとだったと思いますが、希望の凧が日本、パレスチナ、そして全世界であがっています。

大切な人を失った悲しみに暮れることもあります。それでも、私たちは困難に打ち勝つために、毎日立ち向かっています。

私たち、日本とガザの子どもたちが、手に手を取り合い、より良い、そしてより明るい未来に向かって、上を向いて、目の輝きを失わず、そして希望をかかげて、一緒に歩んでいきましょう。

私たちは、日本の皆さんが震災という困難に会いながらも、私たちを支援してくださったことに心から感謝しています。ガザの私たちが、戦争、破壊、避難という辛い経験を乗り越えていくために、日本の皆さんは、すばらしいお手本を見せてくれました。

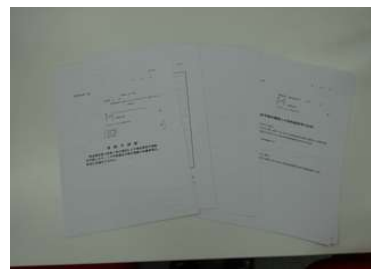
明日、3月9日、東日本大震災からまもなく4年を迎える皆さんに向けて、ガザでも凧揚げを行います。揚げる凧のひとつひとつに、私たちの愛、希望、そして平和への願いを乗せて送ります。

2015年3月8日

ガザの子どもたちより、愛をこめて

3月9日	「ガザ交流会」開催 「ガザと日本をつなぐ大空に 揚げれ！希望の風」イベント第3弾、「ガザ交流会」を開催した。 東日本大震災で被災された方々を想い、パレスチナ・ガザ地区で2012年より毎年3月に行われている風揚げ。今年は、その風揚げを行うガザとインターネット電話（スカイプ）で繋ぎ、ガザの子どもたちと日本の子どもたちが交流した。 始めは少し緊張も見られた日本サイドだったが、積極的に質問したりコメントしたりするガザの子どもたちを見て、日本側も良い刺激を受けたようだ。話題は、ガザで人気のサッカー（ガザの子どもたちから、本田圭祐選手の名前が出てきた）や、ガザの子どもたちが知っている日本語（「ありがとう」「さようなら」と、日本側参加者の知っているアラビア語（昨年、国境なき子どもたちの友情のレポーターという企画でヨルダンに渡航した釜石高校の佐々木千夏さんより、アラビア語の挨拶などが飛び出した）、日本のお祭り（平田第6仮設自治会長の森谷勲さんより、釜石の伝統芸能である虎舞などについて説明いただいた）、お互いの食文化など、多岐にわたった。主役は子どもたちだが、子どもから大人まで、多くの方にお越しいただき、ガザの子どもたちの話を興味深そうに聞いていた。 突如、ガザサイドから、ひとりひとり立ち上がって、日本への感謝のメッセージを伝える場面があった。 「日本は震災で大変な時も、私たちを助けてくれた」「平和な国日本は、私たちのお手本です」戦闘で辛い体験をしているガザの子どもたち。日本への感謝の気持ちを、笑顔で語ってくれたのが印象的だった。 学校の屋上からスカイプ交流を行ったガザだが、交流会の終盤には、その学校の校庭で風揚げが始まり、釜石からも、ガザの子どもたち1000人の風揚げの様子がリアルタイムで見ることができた。予定していた時間を過ぎてしまうほど、みんなの話は尽きない様だった。 「いつか日本に行きたい。だけど私たちはガザから出られない」と言っていたガザの少女。それに応えるように、「こちらから会いに行きます」と伝えた日本の少女。 いつの日か、誰もがいつでも好きな場所に行ける、会いたい人に会える、そんな世界になるよう、今後とも、こういった交流を続けていきたい。			
3月11日	つなみ募金 それぞれ、いろんな思いで迎えられた、2015年3月11日。今回の「つなみ募金」は特別であった。日本リザルツ釜石事務所のある平田の仮設住宅にも、4年経った今もまだたくさんの方々がお住まいで、被災地の皆さまが復興という言葉を実感されるのはいつなのだろうと、もどかしい思いがした一方で、釜石ラグビー場は「第9回ラグビーワールドカップ2019」開催地の一つに決まり、賛否両論はあるものの、確実に街が賑わいを見せ、ラグビーの街「釜石」が全国で連呼されることになる。イボンヌ・チャカチャカさんも日本リザルツも、応援してきたことで、釜石が決まった瞬間は胸躍った。イボンヌのクリアファイルに、リザルツリーフレットとUNRWAリーフレットのペア、もしくは、リザルツリーフレットと「りこちゃんキャンペーン」リーフレットのペアをセットして配布。今回は、「ガザ・釜石合同風揚げ大会および交流会」後援をしてくださった、（有）TMPの田			

	島英樹さんがお手伝いに来てくださった。田島さんは、リザルツのリーフレット類、クリアファイル類のデザイナーでもあり、製造元で大変お世話になっている方。
3月12日	国立マイクロファイナンス／NPO 設立阻止絵金融組織の本格立上げへ これまで NPO を設立するための手続きに取り組んできたが、ようやく東京都との書類の往復が無くなった。4 か月後に NPO 法人くにたち夢ファームの設立が実現しそうだ。この新しい NPO はマイクロファイナンスを受ける顧客やそれ以外の生活が困窮している人達に対して、就労や生活向上に向けた支援を行うことを前提に、助成金を受ける窓口となったり、職員や事務局を置いてこのようなノウハウやスキルを蓄積する場所にしたいと考えている。勿論、一緒に動いている「困難な女性の新しい実家」プロジェクトをサポートする組織として機能させることも想定している。 さてこの NPO に加えて更にマイクロファイナンスを実際に行う金融組織を立ち上げるため格闘中で、昨日も有識者に面会し、組織設立や運営についてアドバイスをいただいた。まだ NPO バンクにとってフィット感のある法律はなく、色々とハードルが待ち構えているが、なんとか近日中に諸条件を整えて、東京都の異なる部署へ申請に参上する。今日は国立市役所内でこれまで続けてきた市役所メンバーとの共同研究会の会議を行った。報告書を来月中旬に完成させ、5月連休明けに市長にプレゼンする方向でメンバー全員の意向がまとまった。今回の共同研究会は私達、民間側のプレゼンを受けて市役所の方達が会の開催を決めて一緒に考えるという経緯にある。
3月18日	平成 26 年度通常理事会と総会 毎年恒例の通常理事会と総会が日本リザルツの会議室で執り行われた。今年の総会では例年同様、前期決算の報告と今期事業計画を審議するとともに、更に理事会や総会の運営を更に効率よく機能させるための方策などについて議論することにした。資料作成はいつものように大変だが、色々振り返る良い機会でもある。 浅野茂隆理事長の登場とともにまず通常理事会が開始された。今年の理事会司会は鈴木裕子が担当。議長は昨年に続き田中徹二理事。時折、代表の白須紀子から補足説明など。今期予算は前期実績の倍額に達するような野心的な計画でその背景などを説明した。 今年の理事会は多くの議題をこなして終了。理事会では来期の事業計画の説明に時間をかけたため、少し時間をオーバーした。 終了次第、総会に移行。今年も多くの方々にご参加いただいた。マイクロファイナンスに、栄養活動に、出張にとさまざまなところでご支援いただいている。今回は時間をかけて審議したが、議案も無事に承認されて、閉会の拍手。無事、理事会と総会を終了し、簡単な懇親会を催した。懇親会にはアドバイザー角泰人先生も参加。久しぶりにお会いできて良かった。
3月29日	マイクロファイナンス活動／金融組織の立ち上げ NPO 設立により目処がつく中で、目下、喫緊の課題の一つとして、金融組織の立ち上げが挙げられる。金融組織を立ち上げるには、法律上、貸付業務の経験がある人や特殊な資格を持った人が組織に加わる必要がある。貸金業法という法律がこのような手続きを制定している。 この法律に向き合うと、日本では何か新しい事業を少しでも始めるときに、実に多くの規制に引っ掛かり、超えていかなければならないことに改めて気付かされる。規制が存在する理由は過去の事件や問題となった



	背景がある。例えば貸金業法では、過去、消費者金融業が全盛だったころ、貸出競争が過熱化し、多くの利用者が多重債務者に陥り、深刻な社会問題となった。そのため、2010 年に総量規制というものが入った。この規制で年収の 1/3 を超える借入はできなくなることが制定され、貸金業者も、適用除外になるケース以外は、常にこの総量規制を念頭に入れて業務を遂行しなくてはならないことになった。昨年、BRAC で研修を受けていたときも、金融教育や多重債務のチェックなどについて、マイクロファイナンスの現場担当者はかなり気を使っていたが、規制の話は聞かず、かなり自由に顧客と取引したり、新商品を開発していた。総量規制がいけないなどとは考えていないが、やはり日本では、あらゆるところで規制は縦横に張り巡らされていて、小さな組織が何かを始めることの難しさを実感している。とは言え、全く道が閉ざされている訳ではない。ある意味では途上国でフリーハンドになっている状態はやがて日本のようにルール化されていく方向なのかもしれない。もしこのような仮説が正しいのなら、むしろ将来、他国で展開する上でとても貴重な経験と蓄積を、今しているということになる。
--	---

4 月	
4 月 5 日	ガザ・釜石交流 「ガザ・釜石交流会」の際に、ガザ側で通訳を務めてくださった（特活）日本国際ボランティアセンター（JVC）の金子由佳さんが、来釜され、野田武則釜石市長を訪問し「ガザ・釜石合同風揚げ大会及び交流会」の報告を行った。ガザでの活動や現地の様子などお話を聞いたほか市長より釜石の復興計画や今後の展望などをお聞きした。「国際交流を深め、市民が誇れる街・釜石にして行きたいので、このような活動を行ってくださることに感謝します」とのお言葉を頂いた。30 分の予定が 1 時間ほどになった。その後、只越町にある「みんなの家・かだって」に移動し、金子さんの講演会「パレスチナ、ガザの人々に寄り添って」を開催した。金子さんのプレゼンの後は、輪になって座談会を行った。 
4 月 10 日	マイクロファイナンス事業で池松先生が来訪 某大手企業の法務部にいらっしゃる企業弁護士の池末匠先生がオフィスに来られた。弁護士の方達が NPO からの法律相談を受けるなど公益的な活動を行っている、BLP-Network というグループを紹介いただいた。ファンドレイジングや設立手続きなどにおいて、関心を持つのみならず一緒に動いてくれる方が増えてきた。くにたちマイクロファイナンスの事業が、就業、住居、子育ての支援と一体となった包括的なアプローチであることにも興味を持っていただけたようであった。
4 月 12 日	国際連帯税フォーラム第 5 回総会開催 途上国支援のための航空券連帯税や金融取引税を求めている国際連帯税フォーラムの第 5 回総会が、自治労会館で開催された。総会は 2014 年度活動報告ならびに 2015 年度活動方針案を討議し、国際連帯税フォーラムという組織名称も「グローバル連帯税フォーラム」に変更されることとなった。日本リザルツはこれまで国際連帯税フォーラムの有力団体として、白須紀子が理事に就任し、物心両面で強力に支援している。なお、総会後記念講演として、本田浩邦・獨協大学経済学部教授による「ピケティ『21 世紀の資本』と資本主義の未来」と題した講演会が行われた。 

4 月 14 日	ポリオアドボカシーミーティング開催 第 5 回ポリオアドボカシーミーティングがリザルツ事務所で開催された。出席者は国際ロータリー日本事務局（山本律子さん）、JIGH(金森サヤ子さん、古嶋海渡さん)、UNICEF 東京事務所（山口郁子さん、佐々木佑さん）、世界の子どもにワクチンを日本委員会（伊藤光子さん）、それにリザルツのスタッフ。各団体の活動情報を共有した後、6 月までのアドボカシー活動、特に議連の先生方、外務省、厚生労働省などへはたらき掛けるアドボカシーの方策について協議した。パキスタンでポリオが増えており、国内の患者団体も、国際的なポリオの状況に関心が高く、会報誌などでパキスタンのことを取り上げている。また、ガーナなどでエボラが防げた背景にはポリオ対策の効果もあったと言われている。各団体の活動、互いに連携できる取り組みを話し合った後、今後の目標を設定した。次回第 6 回は、国際ロータリー日本事務局にて 5 月下旬から 6 月上旬に開催予定。 
4 月 15 日	江田康幸先生と面会 国際エイズワクチン構想（IAVI）ご一行とともに、江田康幸先生とご面会した。一昨年の第二回野口英世アフリカ賞（医療活動部門）を受賞されたアレックス・コウティエノ博士（IAVI の理事会チェアマンも務める）、IAVI プレジデント兼 CEO のマーガレット・マックグリン氏、IAVI の渡辺啓子氏、国立感染症研究所エイズ研究センター長の俣野哲郎先生とともに伺った。江田先生はエイズの治療や予防に関わる研究にも長く携われ、IAVI 設立当時の 1996 年には一般財団法人化学及血清療法研究所（通称：化血研）にて研究をされていた。そうしたご経歴からも、コウティエノ博士、俣野博士らと、エイズ治療、ワクチン研究の最近の状況などを大変興味深くお聞きになっていた。エイズなどの感染症を世界からなくすためには、感染してから治療だけでなく、ワクチンで予防することが不可欠。ワクチン開発をする IAVI も、ワクチンを途上国に提供する Gavi などが重要であることにも言及して下さった。いまだ途上国では、予防接種が受けられずに毎年 150 万人の 5 歳未満の子どもたちの命が失われている。  
4 月 19 日	IAVI 朝食会 IAVI（国際エイズワクチン推進機構）主催の朝食会に参加した。今回の議題は、「Ending AIDS への期待と現状」。IAVI の理事会チェアマン、アレックス・G・コウティエノ博士からのご報告を伺った。世界中に今、1500 万人のエイズ患者がいる。その内の約 3 分の 2 の 1000 万人にあたる人々、アフリカの人口の約 40%がエイズ患者とのこと。博士自身も、10 人の親族と 5 人の友人をエイズで亡くされている。早急なエイズ根絶・ワクチンの開発が必須だ。アレックス・G・コウティエノ博士達が力を入れている、エイズ根絶に必須の 3 項目。 1 つ目は、多くの人に検査を受けさせること。そのためには、安価であり、しかも簡単な（舌の上のにせるだけのような）検査。 2 つ目は、やはり金銭的援助。アフリカでは、妊婦は命を落とすことが多く、まだ 18 歳くらいの少女ですら出産時に生への期待感がない。助かると思える土壌を作ることが必要。例えば日本からわずか 100 万円  

	援助があれば、多くの命を救える。 3 つ目は、ワクチンの早期開発。ワクチンさえあれば、どんな病気も治療できる。エイズも必ず根絶できる。
4 月 30 日	ネパール地震緊急事態に対してお支援のお願いスタート ネパール地震による被害に対する支援の呼びかけをスタートした。日を迫うにつれて、被害の大きさや深刻さが明らかになり、また国連人道問題調整事務所（OCHA）を始めとする国際機関の情報によれば、負傷者の中には地震による建物の崩落などで外傷を負った人達が多く、カトマンズ市内の病院は機能しているものの、建物の容量や医師の人的能力を遥かに超える患者で溢れている模様であった。手術の器材は勿論、外傷を手当する医薬品や水なども不足しているとの情報が入ってきていた。日本リザルツは、現地で長年、医療活動に従事している非政府団体 JANTRA (Japan-Nepal Health & Tuberculosis Research Association) を支援するためにネパール地震での被害者支援を呼び掛けている。JANTRA は結核アドボカシー活動で当団体と関係の深い公益財団法人結核予防会が設立に尽力した地元の医療組織である。結核予防会と協働してスラム地区での結核対策を行い、更にネパール国から国立病院の業務委託を受けて活動している。

5 月	
5 月 12 日	市民ネットワーク for TICAD 会員総会開催 第一部で総会関係の議題を討議し、第二部でワークショップを行った。代表の白須紀子と鰐部が参加し、白須が広報戦略などについて他の会員の NGO 団体と活発な意見交換を行った。 
5 月 14 日	栄養三銃士活動報告 4 月 22 日に 2014 年世界栄養報告（GNR）ラウンドテーブルセミナーを開催し、日本が国際栄養問題に取り組む必要性を官民学で再確認したが、その後も栄養三銃士はさまざまな活動を進めている。5 月 11 日には、日本リザルツで、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパンとともに「栄養三銃士」の栄養アドボカシー会議を開催した。また、5 月 14 日には、ラウンドテーブルセミナーでご挨拶をいただいた国会議員の先生方（あべ俊子農林水産副大臣、高階恵美子厚生労働大臣政務官、山東昭子参議院議員、高木美智代衆議院議員）そして GNR 日本語版に序文をお寄せいただいた武見敬三参議院議員に、御礼とご報告に上がった。さらに、間もなく実現する見込みの国際栄養議員連盟の設立についても、これまでの長いご尽力の御礼と、引き続きのご支援をお願いした。
5 月 15 日	2015 年春 フィリピン ①：ゴミ山の子どもたち 日本リザルツが以前から支援を続けてきた、マニラ郊外にあるスモーキーマウンテン。6 月に新学期を迎える子どもたちのために、学校で必要なものが欲しいとの要望を受け、フィリピンのマニラにやってきた。 閉鎖されてから、ゴミが堆肥化し山のようにっており、草木が育っているのが分かる。スモーキーマウンテンの横を流れる川沿いの家。雨や台風で水位があがると、すぐ水没してしまうそうで、川を流れてくるゴミを拾う子どもの姿もあった。 

5月16日	2015 年春 フィリピン ②：購入物品決定 今回のプロジェクトの対象地区と人数、提供物品などを決めるため、スモーキーマウンテン閉鎖に伴い政府が建設した集合住宅を訪れた。フィリピンの貧困地域では、政府や NGO、教会などが学校の支援を行い、学校で必要な文房具などを提供しているが、中には、そこから漏れてしまう子どももたくさんいる。子どもが多く、近くの学校ですべての子どもたちを受け入れることが出来ないため、遠くの学校に通わざるを得ない子どももいる。しかし、学校が遠いと交通費やおやつ代が必要となり、家計への負担がさらに大きくなるため、結果、子どもたちは学校に行くことができなくなる。ノートがないから、ペンを買うお金がないから、子どもを学校に行かせられない。そしてゴミを拾う生活から抜け出せない。そんな人々が、ひとりでも少なくなるようにと文房具の間屋にて、購入物品の確保と値段の交渉を行った。 
5月17日	2015 年春 フィリピン ③：家庭訪問 今回の支援の対象となるのは、政府や他の NGO、教会などからの支援が届かず、学校物品を購入するのが困難な家庭の幼稚園から小学校の子どもたち 400 人。対象地区は、バランガイ 128（通称：スモーキーマウンテン地区）のアロマ地区に住む子どもたち 200 人、永住住宅に住む子どもたち 100 人、スモーキーマウンテン上部に住む子どもたち 100 人。バランガイの子ども支援課も協力してくれた。配布前に、対象となる子どもたちにチケットを渡し、当日の引換券とした。アロマ地区に住む 26 歳の夫婦の家庭を訪問した。3 人の子どもたちと 5 人家族。旦那さんはゴミを拾って生計を立てるスカベンジャー。一日の収入は 300 ペソ（約 800 円）程で、奥さんは、レストランで二つの仕事を掛け持ちしているが、それでも一日の収入は 300 ペソ。家族 5 人、1 日 300 ペソで暮らしている。ただし、近所の家から電気を分けてもらっているので週 500 ペソ支払い、水もタンクで購入する必要がある。子どもを学校に通わせているが、毎日お昼代を持たせて、学校で必要な物品を買うことは容易ではない。建物の前では、拾ってきたゴミを仕分けしているため、いつもゴミの匂いが漂っていた。当然、家の中にもゴミの匂いはする。 洗い物や水浴びなどは外で行い、水はけが悪いので、常に地面が濡れている状態だ。皮肉にも「アロマ」地区と呼ばれるこの地に住む人々にとって、この生活から抜け出すことは容易ではないが、子どもに教育を受けさせることは一つの希望となっている。日本から寄付してくださる方々のおかげで、スモーキーマウンテンの子どもたちに学校で必要な物品を届けることができる。教育を受けることで、子どもたちが将来に希望を持って生きて行くことが出来るよう、支え続けていきたい。 
5月19日	2015 春 フィリピン ④：学校グッズ配布 配布当日。到着すると、スモーキーマウンテンの配布場所には、既に多くの人が集まっていた。ノート 10 冊、ノートパッド 3 冊、ペン 2 本、鉛筆 2 本、消しゴム 1 つ、定規 1 つ、クレヨン 1 セット、はさみ 1 つ、フォルダー 1 セット、封筒 1 セット、プラスチック封筒 1 セットが入ったバックパックを配布した。事前に渡していたチケットと引き換えに、リストと照らし合わせながら渡したカバンを抱えて子どもたちは笑顔になった。 

5月24日	マイクロファイナンス活動／クラウドファンディング登場に向けて準備 最近のマイクロファイナンス活動では、クラウドファンディングを利用した資金調達も検討している。以前から国内大手のクラウドファンディングの「READYFOR（レディーフォー）」の担当者と打ち合わせを続けてきたが、遂にこのサイトでくにたち夢ファームプロジェクトがデビューできそうな展開となってきた。まずここでくにたち夢ファームプロジェクトのHP作成やオフィス開設のための初期費用を賄いたいと思っている。不安もあるが、何事も挑戦と思って進めていきたい。 
5月25日	「別居・離婚後の親子の断絶を防止する法整備に関する署名」を提出 親子断絶防止法 全国連絡会では、「別居・離婚後の親子の断絶を防止する法整備に関する署名」を集めてきており、14,600筆ほどの署名を分類してひもで綴じて、紹介議員になっていただける先生方へお渡ししてきた。紹介議員をお受けいただいたのは、現在のところ、下記の25名の先生方。（敬称略、五十音順） 荒木清寛、伊佐進一、泉健太、伊藤渉、漆原良夫、大口善徳、大西健介、小熊慎司、亀岡偉民、工藤彰三、佐々木さやか、柴山昌彦、鈴木貴子、高野光二郎、富岡勉、富田茂之、豊田真由子、長尾敬、馳浩、濱村進、平沢勝栄、牧原秀樹、松浪健太、丸山和也、保岡興治
5月26日	Gavi ダグフィン理事長らが来日 Gavi ワクチンアライアンスのダグフィン・ホイブローテン理事長、アクセル・ジェイコブセン理事長顧問、北島千佳資金調達担当上級マネージャーが来日され、Gavi に対する日本からの支援を要請するために大臣、議員の方々と懇談を行った。Gavi は 2000 年に設立され、これまでに 5 億人の子どもたちにワクチンを提供し、700 万人の命を救ってきた。日本政府は Gavi に対し、2015 年度に 17 億円の拠出をした一方で、今後の拠出誓約は発表されていない。財務省は、Gavi に対する国際的な評価の高さに理解を示したうえで、限られた財源の中で世界の保健課題にどう取り組んでいくのか、検討しているところだと話された。外務省では、尾池厚之地球規模課題審議官が、日本の民間会社と Gavi の間でコネクションを築いていく必要性を述べた。すでに Gavi はニプロ株式会社など日本の企業との連携に向けて、話し合いを進めている。資金提供だけでなく日本から優秀な人材を提供したいと、外務省から意欲的な姿勢も出た。さらに衆議院第二議員会館で、山口なつお公明党代表・参議院議員、古屋範子公明党副代表・衆議院議員、谷合正明参議院議員と懇談を行い、ダグフィン理事長が公明党の尽力に対して感謝の意を述べた。温かい雰囲気の中、日本がドナー国というだけでなくパートナーとして何が出来るのかという話し合いが行われた。来年、日本国が議長国を務める G7 でも今年のドイツの取り組みを引き継いでいきたいと語る山口代表。その後、稲田朋美自民党政調会長がお忙しい中駆けつけてくださった。自民党女性活躍推進本部の中でも、女性と世界のワクチンの問題について世界に発信していきたいと話された。夕方になり、ホテルでワクチン予防議員連盟の夕食会が行われ、古屋範子会長代理、逢沢一郎副会長、武見敬三副会長、秋野公造事務局長などが参加してくださった。ダグフィン理事長からは、議員連盟の皆様へ感謝の気持ちを込めてトロフィーの受け渡しが行われた。夕食が終わり、最後に厚生労働省を訪問した。塩崎恭久厚生労働大臣は、支援したい気持ちがあること、次に「日本という国として何が出来るか」ということをじっくり考えていきたいと話された。半日の日本滞在だったためダグフィン理事長にとって大変忙しい日だったが、日本を代表  

	する方々と面会し、Gavi の重要性を再確認してもらうよい機会になった。
5 月 27 日	釜石市保険福祉部との面談 釜石市保健福祉部子ども課を訪ね「らぼーる」事業の相談窓口開設の件で ご担当部署の方々と 2 回目の面談を行った。復興経費に関わる自治体の負担金や、当初計画を進めていた事業において、予定以上の経費の発生や物価上昇などにより、釜石市の財政は益々厳しくなっている。また、リザルツが提案する事業に対して、自治体として人材の確保も出来ず、業務を担当できる余剰人材も無く、どう進められるかが課題であったようだが、将来の人材の育成に大切なことや、地元にはぜひとも必要な活動と認識されており、検討を進めることで了解いただいた。 岩手県から、「子どもの貧困対策計画の策定」として、各自治体へ指示が出ているが、どう対応すれば良いのか思案していたが、リザルツの提案する事業は、その中の一つとして考えられる事。また、自治体として相談業務を行うと、柔軟な相談業務は難しく、どう(金銭的)支援をするかになってしまい、相談者も、逃げ場の無い状況の人ばかりで、「未然に防ぐ事を目指す事業ができる民間団体の活動が必要」と考えているとの事だった。H28 年度予算申請に向け、今後ミーティングを幾度か持ち、1-2 か月で事業内容、予算、連係などの素案作りをしていきたい。
5 月 28 日	Gavi アドボカシー前哨戦 Gavi 理事長ダグフィン・ホイブローテン氏の来日に先駆け、さまざまな Gavi アドボカシーをしてきた。今年 1 月 27 日の Gavi 増資会合の結果を受け、3 月 2 日に共同通信より『ワクチン支援表明せず 日本、G7 で唯一 国際社会から非難も』の記事が配信された。それは 40 以上もの全国の新聞に取り上げられ、一面に掲載された新聞、カラーで図表入りで紹介した新聞など、どれもかなり大きく紹介された。リザルツはスタッフ総出で、自民党・公明党のすべての先生方を含む約 450 名の国会議員一人一人のご出身(選挙区)に対応する新聞を選び、メッセージを添えて、それぞれにお届けする準備をしてきた。そして 5 月 19 日、長くボランティアとしてリザルツを支えてくださり、今は監事も務めてくださっている水澤さんも加わり、皆様にお届けした。それらの記事は、理事長来日時も大活躍で、大変大きなインパクトを与えることになった共同通信の報道に感謝！
5 月 29 日	日本リザルツスタッフ鈴木裕子が J-WAVE に出演 スタッフの鈴木裕子が FM ラジオ放送局 J-WAVE の朝の番組「JK RADIO-TOKYO UNITED」に出演した。この番組は毎週金曜日午前 6 時から～午前 11 時半までジョン・カビラさんが MC を務めている長寿番組で、この番組内の 5 分コーナー「KONICA MINOLTA COME TOGETHER」で日本リザルツの活動を話してほしいと出演依頼が来た。その後、事務局の中で人選して鈴木裕子が出演する運びになった。当日は朝早く、午前 7 時 20 分に六本木ヒルズ森タワーで待ち合わせ。オフィスへ入ると、ジョン・カビラさんの声が開放的なオフィスに響きわたっていた。放送が開始され、短い時間の中で日本リザルツの活動を一生懸命に語った。短い時間だったが、アドボカシー活動の紹介から、日本リザルツの主要な活動である、結核や Gavi に向けた提言活動、そしてくにたち夢ファームや親子の相談室「らぼーる」の開設に向けた最近の動きを鈴木は淀みなく紹介した。
5 月 30 日	親子ネット総会開催 親子ネット総会が開催され、佐々木昇新代表が就任した。親子ネットの理念である「別居・離婚後も親子が自然に会える社会の実現を目指して」、法的枠組み作りに向けて、これからも協力し合っていきたい。総会後は、講演会を開催した。「離婚後の子ども養育に関してできること」というタイトルで、東京国際



	大学教授で心理学博士の小田切紀子先生と、翻訳家で家事調停委員の丸井妙子先生がご登壇された。親の離婚が子どもに及ぼす大きな動揺と不安、そしてそれを最小限に留めるために親としてどうあるべきかを考えるよい機会となった。
5月31日	青梅駅周辺探訪 青梅駅で日本リザルツの白須紀子代表と職員の鰐部行崇氏と待ち合わせをし、くにたち夢ファームプロジェクトにおけるシェアハウスやらぼーる事業における夏季の親子面会交流キャンピングのイメージ作りのために青梅周辺を案内した。 まず案内したのは古い木造住宅をリメイクしたカフェ“ころん”。 昨年、廃屋から手間暇かけてリサイクルされた店内には、レトロな家具が備えられ、地元のアーティストや親子連れのコミュニティーになっている。庭ではツリーハウスの制作中だった。カフェスタッフはアフリカ好きで、もちろんイボヌ・チャカチャカさんはご存知だった。青梅駅周辺は昭和レトロイメージの街起こしが成功しているところや一見表通りで立地の良さそうな建物も残念ながら閉店していたり空き家だったり色々である。全国的に空き家対策が必要で、そんな実態の一端を案内することができた。 “くにたち夢ファーム”の拠点としてシングルマザーに利用してもらいたいような空き家物件、リーズナブルに借り上げできそうな住宅物件などを見て廻った。 天気にも恵まれて、畑仕事中の近隣の方達に白須代表は積極的に話し掛けリサーチしていた。青梅は子供達が伸び伸びと遊び、親子の触れ合いにも良い環境であり、日本リザルツで進行中のらぼーる事業の拠点のヒントも感じられたのではと思った。貧困や諸問題で疲れているシングルマザーや子供達、やはり緑が多く文化の発信、起業のチャンスがある国立で安心できる拠点をみつける。今年立ち上がる“くにたち夢ファーム”やらぼーるの事業を支える一人として、今後もご協力していきたい。



6月	
6月1日	Tシャツアドボカシー 日本リザルツのアドボカシー手法のひとつに、「T シャツ アドボカシー」がある。白須が出勤日の98%くらい、「WE LOVE JAPAN」の復興Tシャツを着ているが、時々、親子ネットがつくったキミドリTシャツも着られる。6月1日のとある集いに、「親子断絶防止 議員連盟」事務局次長でワーキングチームでは事務局長を務めてくださっている、牧原秀樹先生の応援に、「親子断絶防止法 全国連絡会」（20ほどの当事者団体からなる連絡会。親子ネットも構成団体のひとつ）の有志グループと一緒に参加して、会場内で「T シャツアドボカシー」を行った。牧原先生からも「かわいいの着てるね」などと言われた。また、まだ議連にお入りいただいていない先生方にも「今度時間を取ってお話聞かせてください」と言っていたり…T シャツアドボカシー、大成功！といえると思う。



6月2日	ポリオ議連総会出席 「世界の子どもたちのためにポリオ根絶を目指す議員連盟」の総会が開催された。ポリオアドボカシーで協働する、ユニセフ東京事務所、国際ロータリー日本事務局、世界の子どもにワクチンを日本委員会、JIGH、日本リザルツの5団体も出席。議連会長の小坂憲二参議院議員からご挨拶があり、日本がナイジェリアやパキスタンに対して行ってきたポリオの支援を挙げ、各国の取り組みにも成果が出てきている。しかし活動を緩めればまた発生してくるので、完全にポリオが根絶されるまで、決して緩めずに取り組んでいかなければならない、と力強い決意をお話し下さった。司会は、事務局長の藤末健三参議院議員、幹事長の武見敬三先生と事務局次長の岸本周平先生、事務局次長でもある牧山ひろえ参議院議員、牧島かれん衆議院議員、その他にも多くの先生方がご出席されていた。逢沢一郎衆議院議員はちょうど2日前にナイジェリアの大統領就任式に出席して帰国されたばかり。同国でボコ・ハラムの事件があったことなどを受け、国の基盤が安定していないと保健の支援は届きにくい。ポリオ政策が本当に必要としている人々に行き届いているのか、よく確かめていかなければならないと、支援の難しさも一方で指摘された。その他、外務省やJICAの方々、JIGH理事長の渋谷健司先生、ビル&メリンダ・ゲイツ財団の渡辺佑子さん、ユニセフの平林国彦先生など、多くの方が出席され、ポリオ対策強化への関心の高さがうかがえた。 
6月3日	外務省主催 NG 海外スタディ・プログラム報告会 海外スタディ・プログラム研修員プログラム説明会&報告会に参加した。まずは外務省 国際協力局 民間援助連携室の飯田みゆきさんから、プログラムの概要に関する説明があり、今年度の参加を検討されている方々から、様々な質問が飛び交った。次に、平成26年度にプログラムに参加された（特活）ミレニアム・プロミス・ジャパン、（特活）地球の友と歩む会、（特活）ジャパンハート、（特活）環境市民、（特活）ムラのミライ、（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン、それぞれの団体の研修員の方々から報告があった。オーストラリアの NGO でアドボカシーについて学んできた方もおり、「活動対象者の生の声を活かすためにヒアリングを行う」「人々や社会の関心を高めるためにメディアを上手に活用する」など、我々リザルツの活動にも関連する話は、大変勉強になった。 
6月4日	第121回 GII/IDI に関する外務省／NGO 懇談会に参加 約30名の NGO メンバーと、厚生労働省国際課の木阪有美課長補佐、外務省国際協力局国際保健政策室の山谷裕幸室長、杉浦寛奈事務官、綱島由香理経済協力専門員が参加した。議題は「World Health Assembly(WHO 総会)に関する報告」「新国際保健政策」「国際保健における栄養分野の動向」そしていよいよ数日後に迫った「G7」に関するものだった。中でも「新国際保健政策」の中では、NGO の役割とコミュニティ強化の提案が行われ、積極的な意見交換が行われた。NGO 単体の活動だと、途上国で保健に関する支援を行ってもローカルなレベルで止まってしまう、国まで声が届かないという現状がある。そこで日本政府が支援活動を行う際に、現地で活動する NGO を最初から巻き込む体制を作っていくことで、より多くの人々を持続的に救っていくことが出来るという意見が出た。これに対して外務省からも、NGO を「助成する」という姿勢ではなく、「協力関係」で何が出来るか探っていきたいという意欲的な声が聞かれた。

6月5日	GHIT ファンドの国際シンポジウムに参加 GHIT ファンドの国際シンポジウム「JAPAN'S R&D INNOVATION FOR GLOBAL HEALTH」に参加した。開会の挨拶を行うスリングスビー B.T. GHIT ファンド CEO。パネルディカッションでは、ビル&ゲイツ財団のトレバー・マンデル氏、ロンドン大学衛生熱帯医学大学学長のピーター・ピオット氏、自民党国際保健医療戦略特命委員会委員長の武見敬三氏、武田薬品工業株式会社・代表取締役の山田忠孝氏といった、世界や日本の政界、医療界、学会を代表する方々が、これから国際保健分野で日本がどのように貢献できるか、真剣に討議。日本が誇る新薬開発の技術力、イノベーションを世界に届けるべきだという議論の中で、山田氏の「感染症によって途方もない数の人々が世界中で死んでいく中で、なぜもっと切迫感を持たないのか」という発言が印象的だった。	
6月8日	グローバルファンドのクリストフ・ベンとの懇談会 グローバルファンドのクリストフ・ベン渉外局長、ジェニファー・グーセン渉外局ドナー担当部長、高山眞木子渉外局担当官との懇談会に参加した。他の出席者は、グローバルファンド日本委員会、アフリカ日本協議会、マリア・ノモア・ジャパン。増資会合の予定、策定中の新戦略に加え、まだまだ三大感染症（エイズ・結核・マalaria）対策が必要であることなどを確認した。世界のグローバルヘルスの課題は、『感染症や栄養不良』から、『がん、精神疾患などの非感染性疾患（NCDs）』に移行しつつあると言われてきているが、途上国・貧困国で求められているのは、やはり従来の感染症などの対策なのだとのこと。昨年エボラが西アフリカで流行し、世界的に大変な注目を集めたが、結核で亡くなる人は年間150万人以上、単純化すれば3日で1万人以上が亡くなっている計算になる。さらにマリア、エイズを含めればその数は倍増する。途上国・貧困国では、グローバルファンドを通じた三大感染症対策、また Gavi ワクチンアライアンスによる予防接種を通じた感染防止策が最も必要であることが確認された。 らぼーる事業開設ミーティング らぼーる事業開設に向けてのミーティングを行った。提携弁護士として迎田由紀先生、横条勝仁先生、三谷英弘先生にお越しいただき、らぼーるでの相談の振り分けや、進め方、事例勉強会の開催等について話し合った。事例勉強会については、月に1回開催し、ヒアリングシートから1件ピックアップし、どうすればよかったか等を話し合い、日々の相談業務に活かしていきたい。事業開設に向けて、まだまだ課題はたくさんあるが、皆様のご協力のもと、前に進んでいきたい。	
6月9日	グローバル連帯税勉強会 グローバル連帯税フォーラム主催による勉強会「グローバル連帯税を知ろう！～国連での議論と意義について～」が、日本リザルツの会議室で行われた。講師はグローバル連帯税フォーラムの田中徹二代表理事と、横浜市立大学の上村雄彦教授。勉強会では、これまでのグローバル連帯税に関わる歴史、国連で行われてきた議論を振り返り、日本政府へどのように提案していくべきかという今後の取組みについての話があった。お二人の講演後は活発な議論が行われ、航空連帯税に関しては「プライベートジェットなどを利用している本当の富裕層からはお金を取らず、結局中間層からの搾取になってしまうのではないか」といった厳しい意見も飛び出した。	
6月11日	梅雨の合間の「つなみ募金」	

	「つなみ募金」を実施した。リーフレットを配り終えるまで 1 時間以上かった。東日本大震災から 4 年 3 か月、ハイチ大地震から 5 年 5 か月ほど、ネパール地震からは 1 か月半ほどが過ぎた。被災地の 1 日も早い復興を祈るとともに、私たちも何かの形で少しでも力になれるよう続けていきたい。初参加が 2 名、独立のための卒業間近が 1 名、久々に参加のインターンが 1 名、キミドリ T シャツが 1 名の、5 名でいつもの経済産業省前で行った。	
6 月 12 日	マイクロファイナンス活動／新たな助っ人登場 税理士の岡田純先生がマイクロファイナンス活動に加わって下さった。岡田先生は貸金業務取扱主任者という難しい資格を持っている方で、未来バンク事業組合の活動にも参加されている。この度、くにたちマイクロファイナンスの趣旨に賛同されて活動に加わっていただくことになった。金融業者が乱立して多重債務問題などが大変な問題になったときに法律が改正されて、この貸金業務取扱主任者という資格がないと、金融組織を開業できないことになってしまった。岡田先生は、NPO 法人シーズの顧問税理士を務めておられ、その関係から多くの NPO 法人の税務相談や決算業務を扱っている。	
6 月 14 日	マイクロファイナンス活動／国立市内を視察 国立市を訪れて空き家の状況などを視察した。国立駅周辺から南に広がる地域は文教地区で環境も良いためか、戸建て住宅やマンションが乱立している。一方僅かに昭和の香りを残す建物もある。谷保地区ではまだ農業の風景とともに、広々とした家やほぼ一棟空いているアパートなどがあつた。南武線谷保駅の南側はどことなく、のどかな雰囲気包まれている。城山公園にある観光施設の「古民家」。ぜひこのようなところで、「実家」の事業を進めていきたい。	
6 月 15 日	第 6 回アドボカシー・ミーティング出席 国際ロータリー事務局で行われた第 6 回アドボカシー・ミーティングに出席した。参加者は、JIGH、UNICEF 東京事務所、世界の子どもにワクチンを 日本委員会 (JCV)、国際ロータリー日本事務局の皆様とリザルツのスタッフ、そしてロータリー財団ポリオ撲滅ゾーンコーディネーターの舟木いさ子さん。各団体からこの二カ月間の活動報告が行われ、国際ロータリー日本事務局からは、日本政府の支援に対して感謝と敬意を示すため、安倍首相に「ポリオ撲滅推進功労賞」を贈与したとの報告があつた。今後の活動に関しては積極的に意見交換が行われ、10 月 24 日の世界ポリオデーに向けて新たなアイデアも飛び出した。	

6月17日	第59回財務省・NGO 定期協議会に出席 財務省側からは約 10 名、NGO 側からは、リザルツのように貧困問題に取り組む NGO から、環境系 NGO、医療系 NPO、アジア開発銀行や世界銀行まで、約 20 名の方々が参加した。会議の前半では、世界で起きている様々な課題について NGO が提言を行い、それに対して財務省から見解や方針の説明が行われた。議題はアフリカ開発や途上国の不正資金流出問題、石炭火力発電支援がもたらす環境への負荷など、様々なトピックで意見交換が行われた。後半は、財務省から事前に提案された議題に沿って、NGO 側がプレゼンテーションを行った。リザルツからは鰐部が、自身が立ち上げを行っているマイクロファイナンスプロジェクトについて発表。財務省の方も熱心に彼のプレゼンに聞き入っており、発表後は様々な感想や質問が飛び出した。 
6月19日	結核関連会合 国内外で結核対策に携わる団体や企業関係者がリザルツ東京事務所に集まり、結核関連会議が行われた。医薬基盤研究所の保富康宏先生に、現在行われている結核対策の傾向についてお話し頂き、今後の取り組みを話し合った。結核は、未だ世界で終わりの見えない感染症のひとつ。2013 年は、世界で 900 万人が感染し、150 万人の尊い命が結核によって失われた（WHO）。日本でも、かつて「国民病」と言われた結核だが、戦後の取り組みや治療薬の開発によって激減した。しかし、今日では現存の薬が効かない結核が発生しており、日本でも、そして世界でも、その対策が急務となっている。日本には多くの分野において優れた技術があり、その技術が世界に発信され、世界で貢献していくために、団体や企業、医療関係者などの協力の必要性を話し合った。
6月22日	JANIC 総会に参加 早稲田奉仕園で開催された 2015 年度 JANIC 通常総会に参加した。第一部では通常総会として、2014 年度の事業報告、決算報告、役員改選が行われた。日本の NGO は海外と比べて財政的に厳しい団体が多く、職員一人一人の仕事の質的、量的負担が大きいといった問題がある。事業報告では、そのような問題に対して NGO 職員のメンタルヘルス調査を行い、組織強化に繋げていく事業が紹介された。第二部の懇談会「We are JANIC:JANIC の中長期計画を考える」では、総会の出席者が 9 つのグループに分かれグループディスカッションを行った。持続可能な開発目標（SDGs）に関しては、いかに多くの市民の方に知ってもらうかについて話し合われた。 
6月25日	栄養三銃士+応援団 和泉洋人内閣総理大臣補佐官に面会 栄養三銃士（日本リザルツ、ワールド・ビジョン・ジャパン、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン）とケア・インターナショナル・ジャパン、プラン・ジャパンの 5 団体で、和泉洋人内閣総理大臣補佐官／内閣官房健康医療戦略室長にお会いした。内閣官房健康医療戦略室は、同室の飯田圭哉次長を議長とする栄養改善事業の国際展開検討チームを主催しており、政府や企業が連携して、世界の栄養改善への取り組みを進めている。面談では、NGO が行ってきた国際栄養問題への取り組みや、NGO、政府、企業、国際機関など、国際栄養に関わるさまざまなステークホルダーが参加する国際官民連携ネットワークの構想についてなど、さまざまなご提案、ご相談をさせていただいた。  

	第 11 回ポスト 2015 に関する外務省・NGO 定期的意見交換会に出席 外務省からはポスト 2015 政府間交渉・国連開発資金会議の首席交渉官を務める大菅岳史・地球規模課題審議官組織参事官、国際機関の職員の方々、NGO からは 30 名近くの方々が出席した。今回の議題は、現在議論が進められている持続可能な開発目標（SDGs）と第 3 回国連開発資金会議（FFD3）のドラフト文書について。まずはニューヨークから戻られたばかりの大菅参事官から、開発資金会議の議論の状況について説明があった。その後 NGO 側から、教育、ジェンダー、環境、税制、市民社会の参加などあらゆる観点において、日本政府にどのように交渉に取り組んでほしいか、今後の交渉の見通しに関する質疑が行われた。
6 月 26 日	マイクロファイナンス活動／ファンドレイジングのチラシを作成 現在、ファンドレイジングサイト「READYFOR」で公募を方々でお願いしているが、この度チラシを作成した。表面はかおりんごさんのイラストとともに紹介文。かおりんごさんの似顔絵と、「実家を創ろう」に協力した女性創作集団のカラフル・ジャム・パーティさんのイラスト、そして吉田美紀のコラボで作られたチラシとなった。 

7 月	
7 月 1 日	国際母子栄養改善議員連盟の設立総会開催 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパンとともに、栄養三銃士として、国際栄養の取り組みを盛り上げようと数年にわたってきたが、ようやく議連が設立された。司会をされたのは、農林水産副大臣でもいらっしゃる、あべ俊子衆議院議員。 会の始めは、議連の呼びかけ人代表で、議連の会長に就任されることとなった、山東昭子参議院議員のご挨拶。続いて、国会議員以外の方々からもご発言・ご挨拶をいただいた。 厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長 正林督章氏、農林水産省食糧産業局次長 岩瀬忠篤氏、途上国の栄養改善に取り組む企業からもコメントがあった。リザルツからもいくつかの企業や NGO からヒアリングした結果を受け、日本企業や団体の栄養改善事業への進出における課題を発表した。最後に、議連の役員が決定し、副会長に就任された小坂憲次参議院議員から一つご提案とご挨拶があり、当初「国際母子栄養議員連盟」だった名称が、よりわかりやすく「国際母子栄養改善議員連盟」となった。会場は衆議院第 2 議員会館の多目的会議室、定員約 140 名という大会場。それが満員御礼どころか、定員以上の集客となり、議員の先生方 80 名弱、その他（省庁関係者、企業、NGO、学界など）80 名強で、総勢 160 名ほどの皆様ご出席された。  
	「国際母子栄養改善議員連盟」設立総会での「親子断絶防止」アドボカシー 「国際母子栄養改善議員連盟」設立総会で、「親子断絶防止」の活動のシンボルカラーである黄緑の T シャツを着て参加し、「親子断絶防止」アドボカシーをおこなった。国会議員の先生方と名刺を交換させていただき、日本リザルツで「らぼーる」事業を立ち上げるべく準備を進めている旨を短く説明させていただき、チラシをお渡した。平成 23 年に民法 7 6 6 条が改正され、父母は離婚するにあたり、「子の利益を 

	最優先に考慮しなければならない」こと、及び子の養育費・面会交流の取り決めをする旨が法律で明記されたが、時の法務大臣は、国会質問に対する素晴らしい答弁で、この民法改正の主旨をご説明くださった。その「時の法務大臣」とは、江田五月先生。常々、江田先生にお会いする機会があれば、「民法改正時には素晴らしいご答弁をありがとうございました」ということと、「私たちは今でも裁判所へ提出する書面に、江田先生のご答弁を引用させていただいたり、ご答弁をもとに家庭裁判所の運用がどうかを調査するアンケートを実施したりしてきた」ことのお礼を直接申し上げたいと思っていた。江田先生に上記のとおりお礼を申し上げると、にっこり微笑まれて、その時のお気持ちなどお話をくださった。
7月3日	マイクロファイナンス活動／親子でいっしょの民家合宿 マイクロファイナンス活動で再び青梅市を訪問した。今回、日本リザルツが進める親子の相談室「らぼー」事業とタイアップしたプロジェクトを組成するのが目的。名付けて「親子でいっしょの民家合宿」。民家では子どもが自然に触れ、アートや農業体験ができたり、学生ボランティアから勉強を教えてもらったり、似た境遇の子どもたちと出会い寝食をともにする体験などを計画している。また両親の離婚という体験を乗り越え自己肯定感を養うグループワークショップを臨床心理士やカウンセラーの同席の下で行う等の機会もつくりたい。今後、色々な助成団体の公募などの機会を積極的に捉えて実現させていきたい。 
7月6日	ワクチンセミナーに参加 東京アメリカンクラブで開催されたワクチンセミナーに参加した。これは、ワクチンの公共衛生や疾病予防上の価値、メリットを深く考察するためのセミナーで、在日米国商工会議所（ACCJ）が主催している。スピーカーは、GAVI アライアンス資金調達担当上級マネージャーの北島千佳氏、「+Action for Children」代表の高畑紀一氏、川崎市健康安全研究所所長の岡部信彦先生。まずは日本リザルツとも馴染みの深い北島氏が、GAVI アライアンスの活動や世界のワクチン接種の現状について講演した。次に、日本国民の立場から見た予防接種を取り巻く状況について、高畑氏からお話が合った。日本人は「予防接種は母子だけの問題」という意識が強く、女性と比べて男性は、自分や子どもの予防接種を理由に会社を休みにくい風潮があるとのことだった。岡部先生からは、これまで様々な感染症がワクチン接種によって減少してきた歴史や、日本における VPD（ワクチンで防げる病気）の現状についての説明をされた。 
	ストップ結核ジャパンアクションプラン第14回フォローアップ会合 ストップ結核ジャパンアクションプラン第14回フォローアップ会合に参加し、ストップ結核ジャパンアクションプランの策定5者（外務省、厚生労働省、国際協力機構（JICA）、結核予防会、ストップ結核パートナーシップ日本（STBJ））で、進捗状況や課題を話し合った。 来年は、日本が議長国となる G7 サミット、TICAD（アフリカ開発会議）、グローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）増資会合等が開催されることから、それらに向けて日本の結核対策をアピールすべきとの声がたくさん挙がり、議論が盛り上がった。今年12月にはグローバルファンド増資準備会合が東京で開催されることになっており、その時期に結核のイベントを開催する提案などもあった。
7月8日	栄養三銃士の会合を開催 栄養三銃士のセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、日本リザルツの他に、栄養不良改善行動ネットワーク、プランジャパンも参加した。最近の国際母子栄養改善議員連盟設立や、和泉洋人内閣総理大臣補佐官／内閣官房健康・医療戦略室長との面談などを踏まえて、今後の活動や戦略を話し合った。午後は、内閣官房健康・医療戦略室栄養改善事業の国際展開検討会チーム議長を務

	められる飯田圭哉同室次長、宮野大輔同室参事官補佐と面談。上記検討チームの焦点の一つは、栄養改善に向けた民間企業の国際展開推進だが、それには NGO との連携も重要であると言ってくだった。そしてついに、NGO が検討チームの正式構成員に加わることとなり、三銃士の代表が登録された。
7月10日	つなみ募金 メンバー5 人で、経済産業省の前でつなみ募金を行った。東日本大震災、ハイチ大地震、ガザ紛争、そしてネパール地震の復興を呼び掛けて、毎月行っている募金活動。募金を呼びかけることで道を通り過ぎゆく皆様に再び関心を持っていただいている。この日はくにたち夢ファームのファンドレイジングのお願いも加えてもらい、一生懸命配布活動に精を出した。
7月11日	マイクロファイナンス活動／インターン長山さん、財務省で発表 この度、財務省の国際局開発政策課を訪問し、日本でマイクロファイナンスを促進するための方策について自由討論を行った。 その際、一橋大学国際・公共政策大学院でマイクロファイナンスを研究している長山紗己さんが、これまでの研究活動の成果を、財務省の若手官僚の方達へ発表した。長山さんは黒崎卓教授のご紹介で日本リザルツのマイクロファイナンス業務のインターンとして、昨年 12 月より参加。今回、研究してきた本邦での NPO バンクによる貧困支援対策における活用の可能性や政策課題を、外国の事例などを踏まえながら、短い時間で語った。また担当からも実務者として更に短い時間で意見を述べさせてもらった。財務省側では今回、平澤さんが異動されるにあたり、後任の氷海剛開発金融専門官と本間智裕調整係長も一緒に出席。自由な意見交換であったが、さすがにエキスパートであるだけに鋭く参考になる意見をいただくことができた。 
7月16日	第3回サンキューセミナーを開催 講師は東京大学医学系研究科国際保健政策学教授で、JIGH 理事長でもある渋谷健治先生。リザルツは、2014 年 1 月から 5 回にわたって予算勉強会を開催しており、今回のサンキューセミナーは通算で 8 回目となった。台風が近づく中での開催となったが、NGO や企業、国際機関やマスコミの方など 95 人の参加申し込みがあり、当日は約 85 名もの方々が参加された。講演は「保健医療のパラダイムシフトと日本の貢献」と題され、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジや保健医療 2035 などについて、お話し頂いた。「保健医療 2035」とは、急激な少子高齢化や医療技術の進歩など保健医療を取り巻く環境が変化する中で、20 年先を見据えた保健医療システムを作る、厚生労働省による取り組みのこと。渋谷先生はこの「保健医療 2035」策定懇談会の座長も務めており、日本が世界最高の健康水準を維持することは、我が国の経済成長や発展に寄与するだけでなく、世界の保健医療を牽引することにも繋がるといったお話があった。農林水産省副大臣のあべ俊子先生も駆けつけてくださった。Q&A セッションでは多くの方々から質問をいただき、医療保健 2035 の財源や情報格差の問題、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジと栄養の関連性など、さらに踏み込んだお話を聞くことが出来た。  

7月17日	ガザと釜石をつなぐ本を岩手県の小学校に届けるためのプロジェクト始動 このたび、READY FORというクラウドファンディングサイト上で、岩手県の全小学校 342 校に「ガザ：戦争しか知らないこどもたち」を寄贈するためのプロジェクトが始動した。清田明宏著「ガザ 戦争しか知らないこどもたち」(ポプラ社)では、ガザの過酷な環境で生きるこどもたちの様子が紹介されているが、ガザでは「6歳以上のこどもはみな、3回以上の戦争を経験している」という現実がある。これを一人でも多くの日本のこどもたちに伝え、命の大切さについて考えてもらうために、岩手県の小学校に本を寄贈することになった。	
7月21日	日本・パレスチナ友好議員連盟の会合参加 日本・パレスチナ友好議員連盟の会合が、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の保健局長の清田明宏先生の来日に合わせて開催された。日本リザルツも UNRWA のキャンペーン事務局として参加した。冒頭、議連会長の小池百合子衆議院議員が、昨夏の戦争からの復興が進まないガザの人々のために、「希望」をキーワードに議連として後押ししたいとお話された。続いて清田先生から、昨年 7 月 8 日～8 月 26 日まで 50 日間続いた戦争の爪痕に苦しむガザ住民の現在のようすをお話しいただいた。清田先生の本の表紙にもなっている 15 歳の少女イマンさんも、7 歳の頃から 4 回も戦争を経験し、「このままの状態ならガザを出たい」と話していたとのこと。ガザに「希望」を届けるために、日本政府の支援強化が必要である。	
7月23日	世界銀行UHCセミナー参加 世銀東京事務所で開催されたセミナー「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の実現に向けて：保健医療セクターの人材育成の課題と対応」に参加した。今回は世銀保健・栄養・人口主任保健専門官の前田明子さんより、UHC の実現に向けて特に保健人材の育成の課題についてプレゼンがあった。ジョイセフ石井澄江代表理事は、プライマリーヘルスケアの重要性と人材の定着率を上げることが難しい旨、また GRIPS 小林尚行特任教授は各国の保健人材の労働市場の Demand と Supply をよく分析することは重要でその全体を踏まえて各援助機関は仕事をするべきとのコメントがあった。世銀は昨今、母子保健分野においてカナダ、ノルウェー、米国とともに、GFF（グローバル・ファイナンス・ファシリティ）を立ち上げ、今後 5 年間で 120 億ドルの資金調達を見込み、62 か国を支援する計画を発表するなど、2030 年までの SDGs 達成や UHC 実現に向けてその存在感を増している。	
7月24日	清田先生来所 清田明宏先生が日本リザルツ事務所に来所され、2010 年に国連パレスチナ難民救済事業(UNRWA)の局長に就任して以来、先生が取り組んでこられたパレスチナ難民の保健システムの改革についてお話しされた。パレスチナ難民の死因の第一位は糖尿病や高血圧などの生活習慣病であり、この現状を何とかするため、清田先生は改革の一環としてパレスチナに「家庭医制度」を導入された。家庭医制度とは、1 人の医師が家族全体を診る仕組みで、医師を疾患別でなく、地域別に割り振ることで、患者は常に同じ家庭医に診てもらうことが出来る。それまでは、外来担当など一部の医者だけが多くの患者を抱えていたのだが、この制度を導入することで診察する患者の数が平等になり、医師側にも大きなメリットがあった。他にも、現地の市場で安く買える野菜を使った料理教室を開いたり、誰でも手軽に出来るエクササイズを紹介する運動教室を開くなど、UNRWA での生活習慣を改善する	

	ための様々な取り組みについて紹介があった。 財務省主計局訪問 財務省主計局を訪問し、リザルツの活動紹介や、Gavi キャンペーン事務局を担っていることなどをお話した。また、UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）の清田明宏保健局長もお連れし、ガザの現在の状況や、昨年夏に日本リザルツ代表の白須がガザを訪問した様子もお話した。
7 月 21 日 -24 日	マニラの結核関連機関を訪問 フィリピンは、世界の結核患者の 8 割を締める 22 カ国のひとつに数えられており、世界有数の結核蔓延国である。多数の問題からなる発見の遅れや、不完全な治療のために多くの人々が命を落としている。このような状況を改善するため、栄研化学株式会社やニプロ株式会社など、日々結核を始めとした疾病をなくすために研究・開発を続ける日本企業が集まり、現地調査を行った。 7 月 21 日から 24 日までマニラの主要機関を巡り、マニラにあるフィリピン総合病院（Philippine General Hospital）や熱帯医学研究所（Research Institute for Tropical Medicine）などを訪問し、フィリピンの結核対策の現状を伺い、日本の技術がどのように貢献できるかを話し合った。日本大使館や JICA フィリピン事務所、WHO などとも訪問し、フィリピンの結核対策強化のために協力を要請した。 
7 月 26 日	第 6 回民間税制調査会シンポジウム「社会保障と税」に参加 青山学院大学にて第 6 回民間税制調査会シンポジウム「社会保障と税」が開催され、80 名くらいの様々な市民、専門家等が参加した。今回は明治大学公共政策大学院の田中秀明教授が「社会保障と税－自分自身の問題として考える」と題した基調報告を行った。青山学院大学の三木教授は、「税制の問題だけでなく、社会保険料の逆進性の問題が大きいことが田中教授の発表で見てきた」と評価した。格差是正に向けた公平な税制とするための貴重な議論が行われた。 
7 月 27 日	離婚と親子の相談室「らぼーる」第一回事例勉強会 離婚と親子の相談室「らぼーる」第一回事例勉強会を開催した。「らぼーる」に関わる弁護士 6 名、面会交流支援者 3 名、家政学教授 1 名、マスコミ 1 名、当事者団体創設者 1 名の 12 名の専門家に参加いただき、加えてリザルツ関係者 6 名の合計 18 名で、初回から内容の濃い白熱した議論が展開された。まだ相談室開業前であったり、先駆的な取り組みでもあるので、第一回目はいろいろな想定の下での話し合いとなった。各方面の専門家が集結されたので、想定も奇想天外で、内容が深く濃くて、大変勉強になる「第一回事例勉強会」になった。 
7 月 28 日 -29 日	職員研修会 職員全員で同僚の鰐部と鈴木が担当しているマイクロファイナンス活動とらぼーる事業の現地見学及び日本リザルツが取り組んでいる結核、ワクチン、栄養、貧困にかかわる研修を行うため、霞が関の事務所を離れ、青梅の先まで宿泊研修に行った。7 月 28 日の朝、国立駅で現地集合し、ここから監事の水澤氏にもご参加頂いて、まず木暮奈津子さんの作品がたくさん展示されている「画廊ゆりの木」を訪問、昼食後は青梅駅へ移動し、レトロな街の雰囲気を感じながら過日代表の白須たちが訪れた「カフェころん」 

	に行き、6月1日のブログの写真で見たツリーハウスを見学した。次に青梅駅から石神駅に移動し、山に囲まれた気持ちの良い路を周りの物件や自然を観察しながら宿泊先の「おくたま路」に到着し、夕食の時間まで何人かはすぐそばの川まで降りて、川の感触を楽しんだ。夕食後ロビーに集まり、2時間半ほど業務についての研修を行った。7月29日は朝食後、水澤氏の案内でマイクロファイナンス活動とらぼーる事業の現地見学のため、古民家見学や元工場がパン工場となっていてところを訪れたりし、かなりの距離を移動した。その後、「おくたま路」へ戻り、昼食後東京へ戻ってきた。今回の研修旅行で、マイクロファイナンス活動とらぼーる事業、結核、ワクチン、栄養、貧困に対する現在の取組状況の職員全員の共通の認識が形成された。	
--	--	---

8月		
8月4日	ストップ結核パートナーシップ(STBJ)の来年度予算要望 来年度予算の各省の概算要求準備が進められているが、ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ)では結核関連の予算要望を厚生労働省、外務省に提出した。厚生労働省、外務省(国際保健政策室)の皆様には時間を割いて真摯に受け取っていただくことができた。ストップ結核パートナーシップ推進議連・会長の武見敬三参議院議員も訪問し、森亨STBJ代表理事より武見会長に同要望へのご支援のお願いと意見交換をさせていただいた。武見会長より議員連盟として様々な機会を通じて支援していきたいとのご理解を得ることができた。	
8月7日	日本リザルツ事務所で栄養会議を開催 国際母子栄養改善議員連盟の設立総会の開催や、内閣官房の栄養改善事業国際展開検討会チームにNGOが構成員として加わるなど、栄養に関する動きが盛り上がっている。この日の会議には、国連機関からはユニセフ東京事務所、WFP日本事務所、NGOからはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ワールド・ビジョン・ジャパン、栄養不良対策行動ネットワーク、ジョイセフ、HANDS、そして日本リザルツなど10名以上が参加し、活発な議論が行われた。	
8月8日	マイクロファイナンス活動/シェアハウス物件視察 シングルマザーの人の自立支援を行う上での拠点であり、人が集まり、和み、生活をする場所であるシェアハウスを確保するため、不動産会社にもお願いして色々な物件の視察に回った。同時並行で、これまで続けてきた国立市役所との共同研究会の纏めに関わる報告会を市長を始めとする関係者へ行う。	
8月11日	中学生のボランティアさんとつなみ募金 中学3年生の女の子が夏休みの4日間ボランティアに来てくれた。初日は大人ばかりのところへ来てかなり緊張していたが、職員が業務についていろいろな説明をし、一緒に昼食をとったり、議員会館や記者クラブへの外出へ同行したりしているうちに、少しずつ慣れてきてくれた。3日目にはリザルツ恒例のつなみ募金にも同行してくれて、とても良い仕事をしてくれた。	
8月18日	国立市とくにたち夢ファームプロジェクトの共同研究会報告とマイクロファイナンスに関する意見交換会	

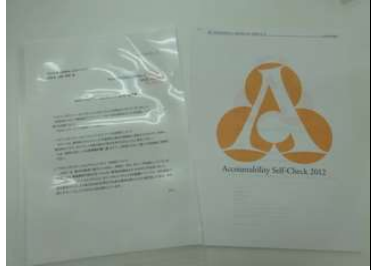
	国立市役所とくにたち夢ファームプロジェクトによる共同研究会の報告書を提出するとともに、佐藤一夫市長を始めとする市役所幹部の方々に市長公室で報告会を行った。まず座長である黒崎卓一橋大学経済研究所教授から概要について説明。市役所から研究会に参加されたメンバーから次々に報告、生活困窮問題とは。官民の協働とは。マイクロファイナンスについてご報告。ひとり親、特にシングルマザーの貧困問題は看過できない問題という意見も出た。研究会の結びとしては、現行の生活困窮者支援の対象となりにくい人達への自立支援において、行政と市民団体が連携し、コミュニティーの力と市場メカニズムの両方を活用して取り組むことは有効であること、マイクロファイナンス、生活困窮者の居場所づくりを他の支援方法と組み合わせた具体的な連携方法を検証して、新しいモデルを国立市から発信し、日本全国や世界に広げることが有効と結論付けた。国立市にとってもこのような官民が共同して研究活動を行うことは初めてのことだった。 その夜、今度は市役所に隣接するくにたち市総合体育館の会議室でマイクロファイナンスの意見交換会を実施した。意見交換会の冒頭、黒崎先生から簡単なお話があり、その後、大和証券株式会社でマイクロファイナンスの普及活動を熱心に進めている岩井亨さんにもお話しいただいた。また財務省の池田洋一郎さんもお仕事が終わった後に会場に駆け付けていただき、マイクロファイナンスに関わる経験談やご見解を披露していただいた。中川喜美代市議会副議長や市議会議員の方々、市役所で生活困窮問題の現場の方々、市民の方々、NPO 団体関係者が参加した。
8 月 20 日	第 122 回 GII/IDI 懇談会に関する外務省/NGO 懇談会参加 外務省にて定例の GII/IDI に関する懇談会に参加した。先日、厚生労働省から外務省国際保健政策室長に着任された日下栄司・新室長の着任挨拶、9 月国連総会 UHC サイドイベント、栄養に関する動き、来年 G7 伊勢志摩サミットまでの国際会議日程、そして現在政府内にて策定中の「国際保健政策 2016-2020」について、情報共有と意見交換を行った。着任された外務省日下室長は、「来年の G7 サミットに向けて頑張っていきたい。新保健政策は検討中であるが、NGO の意見をなるべく取り入れていきたい」と抱負を述べられた。また 9 月国連総会ウィークにおける日本政府、グローバルファンド共催の UHC イベントについては、SDGs サミットに向けて人間の安全保障や UHC の重要性について各国より支持を得られる内容としたいとの説明があった。
8 月 22 日	みんなで支える離婚後の子ども養育 親子ネット主催の講演会「みんなで支える離婚後の子ども養育」が開催された。 講演者は、親子断絶防止議員連盟 事務局長の、馳 浩 衆議院議員と、泉 房穂 明石市市長という豪華な講演会だった。馳先生は、親子断絶防止法（仮称）の素案を読み上げられた。泉市長の明石市の取組みと、その動機や背景などをお話頂いた。



8月23日	第7回民間税調シンポジウム「国際課税を考える」に参加 青山学院大学にて第7回民間税調シンポジウム「国際課税を考える」が開催された。基調報告では、元財務省主計局主計官・OECD租税委員会日本代表で弁護士の志賀櫻氏が、約90分にわたって主にタックス・ヘイブンとグローバル経済における租税回避問題、それに取り組む国際社会の動きについて発表を行った。志賀氏は、「グローバル・エコノミーの現在において、いかにして国家主権の壁を打ち破って実効性のある二重課税及び二重非課税の排除を行うかという問題である」と述べるとともに、「タックス・ヘイブンというブラックホールへの入り口を国際協調によって塞ぐことが最も手っ取り早い方法であるが、取り締まる側と取り締まられる側に、（英）シティと（米）マンハッタンという二つのタックス・ヘイブンがある。泥棒が縄を絞っている状況である」と問題の深刻さを表現した。会場との質疑では、スターバックス等の他国籍企業が巧みな租税回避を行ってまったく税金を納めていなかった事例が取り上げられたが、日本においても、元民主党衆議院議員の仙谷弁護士より「商社や銀行が税金をまったく納めていないが、なぜこんなことが起こるのか、広く一般に問題意識が共有されるべき。民間税調は公平・公正なデータを示しつつ、政府税調等に働きかけるべきではないか」との意見も出された。 
8月25日	第4回サンキューセミナー開催 日本リザルツ事務所にて、第4回サンキューセミナーを開催した。今回講師にお招きしたのは、アライアンス・フォーラム財団代表理事の原文人氏。 「アフリカの子どもの栄養不良改善を目指して～注目のスーパーフード「スピルリナ」の力～」をテーマにお話しいただいた。原さんは、ご自身のご経歴や学び続ける意欲、現在の取り組みに至るまで、熱意を込めてお話された。アフリカの栄養不良改善はもちろんのこと、その先にある教育、そしてアフリカの国々が本当の意味で独立を勝ち取ることを目的に、現在ザンビアで「スピルリナ」を用いた栄養不良改善に取り組んでいる。日本人だからこそ公平な立場でアフリカの国々に関わることができる、日本の官、民、市民社会がそれぞれ協力し合って取り組むことで、栄養不良は改善できると話された。逢沢一郎衆議院議員も、お忙しい中、会場に駆けつけてくださった。日本・アフリカ連合（AU）友好議員連盟の代表を務めるほどアフリカへ関心が高く、原さんの活動へ力強いエールを送られた。最後に、動く→動かすの稲場雅紀事務局長より、熱のこもった閉会の挨拶があった。来年は、ケニアで第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）が開かれるので、市民社会「Afri-Can 市民ネットワーク for TICAD」も益々活動を活発化していく。また、会場には日暮里の「体と世界にやさしいスムージーの店 imena（イメナ）」より、代表の森田結花さんに「スピルリナ」のグリーンスムージーを出張販売していただいた。セミナーが始まる前から次々に売れ、あっという間に完売した。  
8月26日	離婚と親子の相談室「らぼーる」第二回事例勉強会開催 「らぼーる」に関わる弁護士5名、面会交流支援者3名、大学院教授1名、大学準教授1名、マスコミ2名の12名の専門家、有識者に参加いただき、加えてリザルツ関係者5名の合計17名で、初回に続いて今回も内容の濃い白熱した議論が展開された。今回は、相談業務に次ぐサブメインの事業となる「ADR」についての話し合いをじっくり行った。 

8月27日	TICAD V 合同モニタリング会合に参加 外務省にて TICAD V 合同モニタリング会合が開催され、市民ネットワーク for TICAD の皆さんと参加した。今回のモニタリング会合では、TICAD V の横浜行動計画（2013-2017 年）の実施状況を共催者（外務省、UNOSAA、AU 委員会、世界銀行、UNDP）と在京アフリカ外交団（ADC）等がレビューする目的で開催された。会場で配布された報告書（第 1 回年次プログレス・レポートのドラフト）は 6 つの柱ごとに日本と共催者の事業報告がなされ、特に保健分野については、日本のコミット額 500 億円のうち 280 億円が実施済みである等の報告があった。 また、今日は外務省にて共催者団体と NGO の意見交換会があり、前日の議論をベースとしつつ、日本とアフリカの NGO 側の動きや、NGO から次回 TICAD に向けた政策的コメントを発表した。ワシントンから世銀アフリカ局、ニューヨークから UNDP、国連 OSAA（アフリカ担当事務総長特別顧問室）も参加し、次回 TICAD における NGO の参画・役割やイベント開催、日本の国民理解の促進をどうするか、内容面では 9 月に採択される SDGs との整合性ある取り組み、水・衛生問題、不正な資金流出・国内資源動員（徴税能力など）、漁業、天然資源管理と汚職の問題等、幅広いトピックについて意見交換した。	 
8月28日	くにたち夢ファームプロジェクトが WAM 助成金獲得 くにたち夢ファームのプロジェクトが独立行政法人福祉医療機構の地域連携活動支援事業の一つに選ばれ、先日、内定通知書をいただいた。その後、内定事業者の説明会を経て、くにたち夢ファームのメンバーにも報告し、現在、事業計画書を最終提出する段階。WAM 助成金を使って、シェアハウス 2 棟を借りて、まず住居の支援や相談所の開設などを行う予定。マイクロファイナンスは助成事業に直接関係しないが、まず色々な人達が集まり憩える場所づくりから始めていき、マイクロファイナンス事業も形づくっていくという考えで応募してみた。この貴重な資金を使ってぜひ活動を具体化させていく大きなきっかけにしたい。また助成金をいただいたことで広報活動の一環で WAM のマークを使わせていただくことになった。	
8月28日 - 29日	国際シンポジウム(WAW) 8月28日（金）と29日（土）の二日間にわたり、女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム（WAW : World Assembly for Women in Tokyo）が開催され、初日の公開フォーラムに参加した。アフリカ初の女性大統領であるリベリアのエレン・ジョンソン・サーリーフ大統領や、ロッキード・マーティン・コーポレーションのマリリン・ヒューソン CEO など、世界で活躍する女性たちが集まった。オープニングの安倍晋三首相によるスピーチでは、女性の活躍を推進するための重点的な取り組みが紹介された。 特に、男女共に住みやすい社会づくりや、女性が意思決定をくだすリーダーとして活躍し、イノベーションに貢献していく環境づくり、母子家庭への更なる支援拡大を明言され、さらに、日本のみならず世界で女性の活躍を推進するため、特に今後 3 年間で女性や女児の教育に 420 億円以上の ODA 実施を宣言された。「女児の教育をテーマとす	 

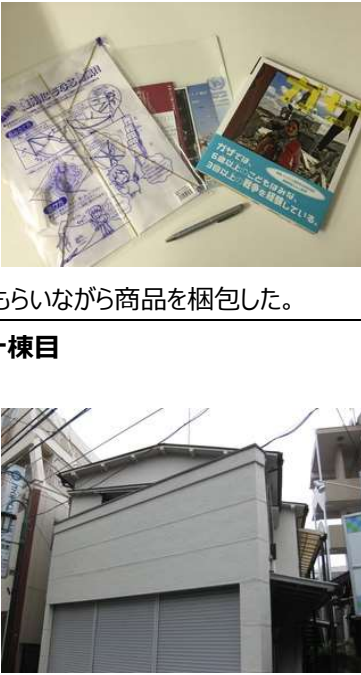
	るパネル・ディスカッション」では、持続可能な経済発展に必要な女兒教育の大切さについて話し合われた。また、教育によって早婚や早期出産、病気の予防などにつながるため、教育は命を救う。冒頭、安倍首相のスピーチは、「なぜ女性の活躍を推進するのかを問う時代は終わり、如何に実現するのかを議論する時である」との力強いメッセージで締め括られ、また、来年の G7 伊勢・志摩サミットの議長国として、「女性と自然科学・技術、女兒教育を含むエンパワーメント、女性と健康・保健、女性と企業などを重視」するとの方針を示された。
8 月 31 日	第 7 回ポリオアドボカシーミーティングに参加 JIGH (Japan Institute for Global Health) にて開催された第 7 回ポリオアドボカシーミーティングに日本リザルツも参加した。ポリオ根絶に関心を持つ NGO がおよそ 2 か月に 1 度開いている定期会合で、今回は JIGH、ユニセフ東京事務所、国際ロータリー日本事務局、世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JCV) といった団体が顔を合わせ、主に 10 月 24 日のポリオデーに向けた活動状況などを共有した。JIGH さんより、ポリオ議員連盟のアップデートや、10 月 26 日に衆議院第一議員会館にて予定している世界ポリオデーシンポジウム「最終段階にきたポリオ根絶の危機に向けた日本の挑戦」の紹介があった。 
9 月	
9 月 2 日	第二回国際母子栄養改善議員連盟開催 衆議院第一議員会館で、第二回国際母子栄養改善議員連盟が開催された。国会議員の先生や省庁、国際機関、企業、NGO、学界等から約 70 名の方々が参加した。まずは様々な国々で栄養問題の改善に取り組んで来られた国際機関、NGO や企業の方々から、議員連盟に期待することなどを発表した。厚生労働省や外務省など省庁の方々からも、栄養分野に関して官民連携で積極的に取り組んでいきたいという意見が出た。次に、あべ俊子衆議院議員から「国際母子栄養改善国家戦略タスクフォース」についての発表があった。栄養改善のためには、政府だけでなく、国際機関や NGO、企業、学界などのマルチステークホルダーによる取組みが重要。そこでこの国際母子栄養改善議員連盟の下に、協議会と分科会からなる「国際母子栄養改善国家戦略タスクフォース」が設立されることになった。協議会には NGO、国連機関、企業、学界などのあらゆるセクターが参加し、テーマ別の分科会「農業支援」「保健」「水と衛生」で栄養改善に向けた具体的な施策について議論が行われる予定。最後に日本リザルツから議連設立総会の報告を外務省の GII/IDI 懇談会で行ったことを報告した。 
9 月 7 日	G7 保健ネットワーク会合第一回ミーティングに参加 来年 5 月に開催される G7 伊勢志摩サミットに向けて、日本の NGO も準備を進めつつあるが、国際保健分野で活動する NGO ネットワークが立ち上げられ、事務局はジョイセフさんが務めている。参加団体は現時点でジョイセフ、アフリカ日本協議会、HANDS、マラリア・ノーモアジャパン、ストップ結核パートナーシップ日本、ワールド・ビジョン・ジャパン、セイブザチルドレン、日本リザルツの 8 団体。会合では、2008 年 G8 北海道洞爺湖サミットにおける NGO の活動経験や過去のコミットメント、プロセスを振り返りつつ、今回のサミットでは何を目標とするか等、今後の活動の焦点とイメージを皆さんで議論した。保健分野を含む日本の ODA 増額、SDGs 達成に向けたコミットメント (SDGs ができて初めてのサミットとなる)、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジやヘルス・ガバナンスにおける市民社会の役割等に関して、意見を発信していく必要性を共有できた。既に政府は国際メディアセンターを三重県営サンアリーナに設置することを発表した。サミット主

	会場の賢島から約 20 キロの地に日本はもちろん、世界各国の NGO もここに集まることになる。	
9 月 11 日	つなみ募金 毎月 11 日に東日本大震災、ハイチ大地震、ガザ紛争、ネパール地震の復興支援のために行っている日本リザルツ恒例のつなみ募金を経済産業省前で行った。	
	クラウドファンディング目標達成 日本リザルツでは 2 カ月前からクラウドファンディングサイト上で、岩手県の全小学校 342 校に「ガザ：戦争しか知らない子どもたち」を寄贈するための挑戦を行ってきたが、東日本大震災から 4 年半経ったこの日、目標金額の 505,000 円を大幅に上回る、615,000 円という結果でプロジェクトを終了することができた。皆さまに寄附していただいたお金は、絵本の購入費、小学校への配送費として、大切にに使わせていただく。	
9 月 14 日	らぼーる研修/開設準備 らぼーるの相談員としての研修を行ったほか、開業に向けて、機器の買い出し、パソコンや電話のセッティング、リーフレットとホームページの準備、テキストの作成などの準備を進めた。	
9 月 18 日	ASC2012 を取得 特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）の審査を経て、ASC2012 を取得した。ASC とはアカウンタビリティ・セルフチェックと呼ばれ、団体の様々なステークホルダーに対して説明責任を十分に果たしていく上での内部体制や経理業務などの点検を自ら行うというもの。 JANIC からご担当者 2 名の方が直接オフィスにもお越しになり、当団体職員 3 名と一つ一つの検討項目について議論を重ね、その後、JANIC からの質問事項に回答してようやく取得に辿り着いた。 日本リザルツは以前よりブログの充実を図っており、団体のブログや SNS などを利用した活動の発信の強化を図っている。また NGO や市民向けセミナーを多く主催することで Face to Face での対話活動の促進にも注力しており、これらの活動はある意味、ASC に対応したものと言える。	
9 月 28 日	離婚と親子の相談室「らぼーる」 第三回勉強会を開催 大正大学人間学部臨床心理学科教授 青木 聡先生と、東京国際大学人間社会学部教授 小田切 紀子先生にご参加いただき、離婚と親子の心理の専門家、研究者の第一人者のお立場からも貴重なご意見をいただくことが出来た。 また、青木先生が最近視察されたノルウェーの最先端とも言うべき離婚制度のお話を伺うことができた。毎回のことだが、議論が白熱して、終了後もしばらく会議室のそこので、少人数の話し合いは続いた。	

9月29日	Gavi ワクチンアライアンスへの補正予算提出 本年度補正予算の準備が進められているが、スタッフ 2 名で国会議員の議員会館事務所を訪問し、Gavi ワクチンアライアンスへの提出を求める内容のペーパーにお手紙を添えて配布させていただいた。ワクチン予防議員連盟の議員の皆さまを中心に回らせていただき、スタッフとボランティアのみんなでメッセージを書いたハガキも添えた。 
	NPO 法人くにたち夢ファーム理事会開催 新しく設立された NPO 法人くにたち夢ファームの理事会を、一橋大学経済研究所会議室で開催した。議題はこの度、内定いただいた独立行政法人福祉医療機構の助成金を利用して早速、実家づくりの第一棟目の契約を行うことについて話し合った。また併せて NPO 法人の活動予算についてなど協議した。特に助成金が終わった後、どうやって自立運営していくかなどまだまだ課題は多い。 
9月30日	国会議員を訪問 清田先生の資料などを持って国会議員の先生方を訪れ、パレスチナ難民の現状について説明して回った。多くの方々が、難民問題に関心を持ってくださり、話を聞いてくださった。安倍総理が、日本時間 9 月 30 日未明に行った第 70 回国連総会での一般討論演説の中で、シリア・イラクの難民・国内避難民に支援に、昨年実績の 3 倍となる約 8.1 億ドルを表明したことなども強調してお話した。
	故香川俊介様お別れの会 故香川俊介様のお別れの会が営まれ、リザルツからは白須が出席した。香川様は主計局主計官、法規課長、総務課長、総務次長、総括審議官などを経て、その後は官房長や主計局長を歴任し、2014 年 7 月から財務事務次官を 1 年間務められた。2013 年 10 月 17 日、日本リザルツは、武見敬三参議院議員、W B A 世界バンタム級王者・亀田興毅選手、超多剤耐性結核を乗り越えたフィリピン出身のミルドレッド・フェルナンド氏、日本で多剤耐性結核を感染・発症した成瀬匡則氏、世界基金戦略投資効果局長の國井修氏、公益財団法人日本国際交流センター執行理事、世界基金支援日本委員会事務局長の伊藤聡子氏、アフリカ日本協議会の稲場雅紀氏と共に、世界基金の重要性を訴えるため、当時主計局長だった香川様を訪問した。面談後、香川様からは「皆さんの熱い思いは理解しました」と温かいお言葉をいただき、実際に 2013 年末、日本政府から世界基金へ 8 億ドルの拠出が発表された。 

10 月	
10月1日	らぼーる 開所式 らぼーる開所式を行い、早川先生、迎田先生、少し遅れて三谷先生が、駆けつけてくださった。そして最後には、リザルツの白須代表が、お祝いの品としてらぼーるカラーでもある、グリーンの置き傘をプレゼントしてくれた。 
10月2日	グローバルフェスタ JAPAN2015 準備

	グローバルフェスタ 2015 に向け、職員全員でブース（テント）の飾りつけをするパネルや写真、配布物の準備を行った。写真等の飾りつけやテーブルに置くもの、配布するもの等の準備に追われた。	
10月3日 ～4日	グローバルフェスタ JAPAN2015 今年のグローバルフェスタ JAPAN には2日間で約 101,300 人が訪れた。日本リザルツの皆で手分けして Gavi、UNRWA、結核、ワクチン、ODA、マイクロファイアンスなど多岐に亘るパンフレットを約 4,000 部を配った。様々なパンフレットを配った中でも最も関心が高かったのはワクチン、Gavi、そしてパレスチナ支援だった。両日とも午前中から気温がぐんぐん上がり、正午の頃には 25 度を超えて暑い日だった。パンフレットと一緒に渡したウェットティッシュやハンカチなどのノベルティグッズも好評だった。ノベルティグッズを、無償で提供して下さった企業各社を紹介。 栄研化学株式会社、ニプロ株式会社、日本ビーシー製造株式会社、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社、MSD 株式会社(敬称略)。2 日間で多くの方にリザルツの活動を知ってもらうことが出来て、大成功だった。	 
	グローバルフェスタ JAPAN2015 「らぼーる」の活動 「らぼーる」でも、10月3、4日のグローバルフェスタでリーフレットを配布した。日本リザルツのブースのテント内に机を2基置いて、そのうち1基は「らぼーる」でお借りした。折しも、10月3日の毎日新聞夕刊の1面に「厚生労働省は10月から、離婚後の親子の面会交流の取り決めに『裁判外紛争解決手続き(ADR)』を活用する『面会交流 ADR』の試験運用を始めた。厚労省はこの調査研究事業を NPO 法人日本リザルツに委託した」とする記事が出た。何かとタイムリーな記事の掲載となった。「らぼーる」の横では、親子ネットの方々が、この日のために作成した大きなパネルを使用してアンケート調査を実施した。	
10月9日	つなみ募金 毎月恒例の街頭募金を行った。今回は、恒例の東日本大震災、ハイチ大地震、ガザ紛争、ネパール地震の復興支援活動に加え、厚生労働省からの委託事業である「親子の面会交流の円滑な実施に関する調査研究」通称「らぼーる」の街頭活動も行った。「らぼーる」のクイヤーファイルに日本リザルツのパンフレット、毎日新聞の記事、らぼーるの名刺サイズのリーフレットを入れて配布した。	
10月13日	第5回サンキューセミナー「財政運営を通してみるグローバル経済への対応」 第5回サンキューセミナーを開催し（共催：動く→動かす）、財務省より太田充・大臣官房総括審議官にお越しいただいた。テーマは、「財政運営を通してみるグローバル経済への対応」。世界・日本経済、人口動態の推移を踏まえたうえで、社会保障費等の歳出が増加する中で、直面している財政課題を非常に明確にご説明いただいた。80名近くの申し込みがあり、毎回のように満席のご参加を得ることができた。	

	セミナー冒頭、公益財団法人プラン・ジャパンの鶴見和雄代表理事（JANIC 副理事長）より、NPO の事業もグローバル経済と無関係ではなく、難民問題等にも直面しているとご挨拶いただいた。逢沢一郎衆議院議員にもご挨拶いただき、国際連帯税に関する議論も今後の税制改正の議論になるが、これを支援する国民の声が重要であり、また NPO 税制の改善についても取り組む旨発言をいただいた。質疑応答では、グローバル連帯税フォーラム、東京福祉大学、ワールド・ビジョン・ジャパン、セイブ・ザ・チルドレン・ジャパンの各位より質問があり、財政危機に対して具体的にどう対応していくのか、SDGs 時代の ODA 予算の増額は可能か、租税回避問題等について質問が出た。ODA 予算に関して太田氏は、地方交付税等に比べて ODA 予算は非常に小さい規模であるが、他の予算が緊縮化の中で国民理解を得られるかどうかの問題ではないか、と答えた。最後に、元衆議院議員・弁護士の早川忠孝先生より閉会の挨拶をいただき、国際的な活動によって利益を上げる企業は日本政府の税収には貢献していないことを踏まえ、国際協力にかかる財政負担を何らかの形で企業がさらに貢献してもよいのではないか、このような勉強会は非常に有益であったとコメントをいただいた。太田総括審議官の講義はまだまだ一部との印象で、各参加者からも続編を期待する声が上がったので、今後次の機会を検討していく。	
10 月 14 日	クラウドファンディングお礼商品発送 岩手県の全小学校 342 校に清田明宏著「ガザ：戦争しか知らないこどもたち」を寄贈するための、クラウドファンディング。以前、目標額に達成したというご報告をしたが、今週はこのプロジェクトにご寄附頂いた方への手紙書きと、お礼の商品の発送作業を行った。今年 3 月に「パレスチナ・ガザ地区と釜石の合同凧揚げ大会及び交流会」を開催したが、その時に一緒に凧揚げを行った釜石市スポーツ少年団の子ども達に一足先に本を読んでもらい、ハガキにメッセージを書いてもらった。一枚一枚感謝の気持ちを込めて手紙を書き、インターンの方にも手伝ってもらいながら商品を梱包した。 マイクロファイナンス「くにたち夢ファーム」実家づくりのための居宅 第一棟目 独立行政法人福祉医療機構の助成金により、くにたち夢ファームの実家づくり事業の居宅第一棟目を正式に借りることになった。一階に店舗、二階にアパートがある居宅。二階のお部屋には照明やエアコンも取り付けて部屋らしくなった。くにたち夢ファーム内に実行委員会を作り、この第一棟目を利用しながら女性の自立に向けた活動をどのように行うか検討していく。また併せて第二棟目も借りる予定にしている。今度は一棟目と違う趣のところを借りる予定。早速、住まわれる方も現れ活動が始まった。	

10月15日	第123回 GII/IDI 懇談会に出席 外務省にて第123回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会に出席した。まずは、新しく外務省 国際協力局 地球規模課題担当審議官に着任された竹若敬三氏からご挨拶があった。竹若氏は、以前国際協力機構（JICA）総務部長や、フィリピンやインド大使館での勤務歴があることから、これまで NGO との関わりが多かったそうだ。GII のような場を大切に、積極的に NGO の声を取り入れていきたいと述べられた。その後は、先月開かれた国連総会の様子や、その時に採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 年アジェンダ」の概要について説明があった。第二回国際母子栄養改善議員連盟についても、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの地引英理子栄養アドボカシー・オフィサーから報告があった。
10月19日	マイクロファイナンス「くにたち夢ファーム」理事会を WAM 助成を受けた居宅で開催 くにたち夢ファームの第一棟目で、理事会が開催された。今回はまず一棟目の工事の進捗状況について話し合われた。照明やエアコンなど多くの設備を整えたことから予想以上に費用が高くなってしまった。「くにたち夢ファーム」はまだ小さな団体で資金繰りは厳しいので、新たな助成金にも応募することになる予定だ。また第二棟目についても話し合った。過去から色々候補を探してきたが、このような活動を行うにはオーナーのご協力が不可欠であり、ここに来て案件も絞られるようになってきた。第一棟目が動き始めたので、くにたち夢ファームの運営委員会が盛り上がってきた。
10月23日	「りこちゃん」が静岡市のリーフレットに登場 先日、静岡市こども家庭課の岡 哲丈さまから「らぼーる」にお電話をいただき、「離婚届を取りに来られた方に養育費について取り決めるように案内するリーフレットを作成中で、イラストを探していたがいいのがなく、『らぼーる』さんの HP を見たとき、『これだ！』と思ったのがあったが、使用を許可していただけますか？」というお問い合わせをいただいた。作者である三箇美奈子さんには、今までボランティアでイラストを提供していただいていた。彼女は、私がイメージを伝え、それをはるかに超える、何とも心とわくわくするイラストを描き上げてくださった。「りこちゃん」がこんなに有名になったことを彼女は「使ってもらってうれしい」と大変喜んでおられた。きっと静岡市でも使いたいというお申し出を嬉しく受け入れられるだろうと思い、静岡市にも使っていただくこととした。前述の岡様からは、「事情があって離婚することになった家庭の子どもが、りこちゃんのように、笑顔で生活していければと、静岡市も願っております」という言葉をいただき、「リーフレットができました」と完成したものをお送りいただくという心温まる交流ができた。
10月23日	ルイ・ダ＝ガマ氏とケニア大使館を訪問 日本リザルツがキャンペーン事務局を務める「プリンセス・オブ・アフリカ財団（代表：イボンヌ・チャカチャカ）」のディレクターであり、イボンヌのアドバイザーでもあるルイ・ダ＝ガマ氏が来日し、ケニア共和国大使館を訪問した。ソロモン・K・マイナ（Solomon K. Maina）特命全権大使は、次の予定が詰まっているので 15 分程しか時間がないと伺っていたが、来年の TICAD に向けて一緒に取り組んでいこうと話が盛り上がり、結局 45 分近くの面談となった。



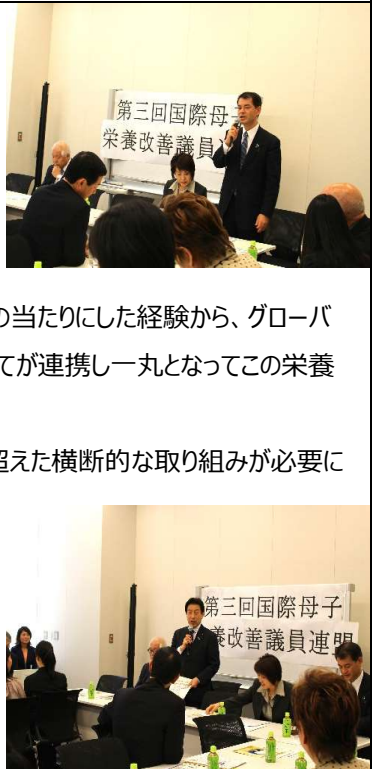
	アフリカナイトに参加 「アフリカナイト：南部アフリカ開発共同体（SADC）の伝統文化、音楽、ファッション、観光の夕べ」というイベントに参加した。南アフリカ大使にご挨拶することが目的。南部アフリカ各国がブースを出して、文化紹介が行われていたり、料理が提供されていた。来年はアフリカで初めての開催となる TICAD を控え、アフリカはますます盛り上がっている。	
10 月 25 日	「らぽーる」親教育プログラムを実施 厚生労働省の調査研究事業として日本リザルツが受託し開業した「離婚と親子の相談室『らぽーる』」主催の「親教育プログラム」を実施した。「親教育プログラム」は先進国では離婚する両親に対して受講を義務付けている国や州も多く、つまり、先進国のほとんどの国や州では、「親教育プログラム」を受講し、子どもの「養育計画書」を提出しなければ離婚はできないシステムになっている。内容としては、サブタイトルを「共同養育を実現する親であるために」として、まず、子ども特有の病気や、生まれてからの発達を振り返り、子どもは大人とは違う、固有の命を持った発達途上の人間であることや、親がどれだけの愛情と手をかけて子どもを育てるかということ、そしてそれはもう一方の親にもいえることであるということなどをクイズなども盛り込みリラックスする中で再認識していただいた。そして、その子どもにとって一番身近な父親、母親の役割を話し合ったり考えていただいた。数日たってから、受講中は分からなかったことが、じわじわと理解が進んできた(何のために子どもの病気や発達を振り返るのだろうと思ったが、今しきりに当時のことを思い出して自分の言葉かけや心遣いを今後は変えてみようなどと考えている)といった感想も寄せられた。3 月末まであと 2 回実施予定であるが、都度の修了証や、3 回分のスタンプが押せる受講票を発行してほしいなどのリクエストも出た。	 
10 月 26 日	2015 年世界ポリオデーシンポジウムに出席 参議院議員会館にて開催された「2015 年世界ポリオデーシンポジウム「最終段階にきたポリオ根絶の危機に向けた日本の挑戦」（主催：一般社団法人ジェイ・アイ・ジー・エイチ（JIGH））」に参加した。 武見敬三参議院議員、世界の子どもたちのためにポリオ根絶を目指す議員連盟幹事長より、パキスタンへのポリオ議員連盟の視察団の紹介がなされ、同国のポリオ根絶支援では、ゲイツ財団の支援を得て保健円借款（ローン・コンバージョン）を初めて活用した事例であり世界で高く評価されている。日本政府もグローバルヘルスを戦略的に進めようとしており、根絶可能であるポリオはその重要な柱である、との力強いメッセージがあった。ゲイツ財団クリス・エイリアス氏（国際開発プログラムプレジデント）、WHO ハミッド・ジャハリ氏（世界ポリオ根絶推進活動ディレクター）からはビデオメッセージが寄せられ、ともにこれまでの日本の貢献を評価するとともに、来年 G7 サミット議長国としてポリオ根絶への日本のリーダーシップを期待するコメントがあった。 その後、NHK 飯田香織氏のモデレートのもと、パネルディスカッションが行われ、阿部俊子衆議院議員（ポリオ議連）はポリオ根絶に向けた「ラスト 1 マイル」への日本の役割を強調された。小坂憲次参議院議員（ポリオ議連会長）は、懸案となっていたポリオ視察がようやく実現でき、ポリオ根絶への支援は日本にしか	

	できないことは何かを示すことができた、ポリオ根絶の道は平坦ではないがナイジェリアでは9月に終息できた、今後も尽力していきたいと締めくくった。
10月27日	グローバルファンド会合に出席 10月27日、衆議院第一議員会館にてグローバルファンド日本委員会第19回議員タスクフォース会合・第14回アドバイザリーボード会合に出席した。グローバルファンドや議員タスクフォースからの出席者の他、国際NGOなど海外からも多くのゲストが参加した。まずは、グローバルファンド日本委員会議員で、タスクフォース共同代表幹事の逢沢一郎衆議院議員、古川元久衆議院議員からご挨拶があった。次に、グローバルファンド戦略・投資・効果局長の國井修氏が、エイズ・結核・マラリアの制圧に向けて、グローバルファンドがどのような成果を出してきたかプレゼンテーションを行った。続いて、グローバルファンドを支援するNGO代表からのコメント。International Community of Women Living with HIV マラウイ支部代表の Clara Banya、International Civil Society Support 事務局長の Peter Van Rooijen 氏。最後に日本リザルツから白須がスピーチを行った。RESULTS Korea の Sunnie Kim、RESULTS Australia の Sarah Kirk、Princess of Africa Foundation の Louis da Gama とも久々の再会を果たした。  エイズ・結核・マラリア国際シンポジウムに参加 弘済会館で国際シンポジウム「新たな国際目標（2030 アジェンダ）とエイズ・結核・マラリア ～日本から考える三大感染症の今後～」に参加した。マラリア・ノーモア・ジャパン、アフリカ日本協議会とともに日本リザルツは本シンポジウムを主催している。グローバルファンドの國井修戦略・投資・効果局長を始め、海外から多くのゲストが参加して国際色の強い会となった。そんな中で、ストップ結核パートナーシップ日本の理事である成瀬匡則氏が登壇し、率直に発言されたことがとても印象的だった。 「普通に働いているときにどうも体の調子が悪く、病院に行ったら突然、多剤耐性結核と診断されたこと。実感もないまま、身体的な症状は回復しても病気は全く改善しないというジレンマに悩んだこと。転院した結核の病棟は絶望が支配しているようなところで死を身近に考えながら生きた日々。絶望と希望が交錯する中でお互いに手探りをするように病棟の患者の人達と続けてきた会話、そして奇跡的に肺も切除せず無事退院しても、世間の目は冷たく元結核患者として見られる辛さ。」 このような苦しみのある人達が少しでも希望を持てる活動をしたい、自分のできることで役に立ちたいという思いでお話をされていることが伝わってきた。
10月29日	第6回サンキューセミナー開催 リザルツオフィスで第6回サンキューセミナーが開催された。今回は、以前も一度講師をお願いした渋谷健司先生をお招きし、グローバルヘルスの今後の課題についての講演をしていただいた。伊勢・志摩 G7 サミット開催に際し、日本が国際社会のグローバルヘルス改善にどのような貢献ができるのか、というお話に加え、現在のグローバルヘルスグループがどのように活動し、現在の課題と今後どのように活動を進めていくのかという具体的なお話をしていただいた。「薬やワクチンそのものを開発するより、それをどのように市場に流通させ、一般市民がアクセスできるようにするか、ということの方がよほど重要であり、かつ難しい」という話が印象的だった。

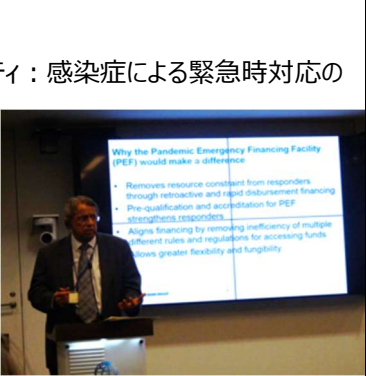
11月	
11月1日	ガザの子どもたちが来日

	深夜、ライヤ・ヘレス先生とモハメド・アブハドルス君、ラワン・サフィさん、ガイダ・アブハトゥラさん 3 人のガザの子ども達が羽田空港に到着した。予定より 2 時間近く遅れての到着だった。	
11 月 2 日	ガザの子ども達が東洋英和女学院高等部を訪問 ガザから来日した子ども達と先生は最初の訪問先として東洋英和女学院高等部を訪ねた。東洋英和女学院では、UNRWA 職員を経て、UNHCR 日本代表もされ、現在、大学院で教鞭をとられている滝澤三郎教授を始め多くの先生や職員が出迎えられた。メディアも来ており、今回の少年少女の来日に対する関心の高さがうかがえた。出迎えの後早速、高校二年生の授業に参加した。自己紹介ではなぜ日本に来たのという率直な質問を受け、ラワンさんは戦争や東大日本大震災など困難な事態を乗り越え、復興した日本をお手本として習いたいと語った。モハメド君は自分の学校は日本の援助によって建てられ、とても感謝しており、日本の文化や考え方にもぜひ触れてみたいと発言した。ガイダさんの家も日本の援助によって建てられたそうだった。その後、グループに分かれ交流した。ガザの大変な状況や風揚げの話などは適宜、滝澤先生やリザルツスタッフから捕捉した中で高校生の皆さんにも 3 人を巡る悲しい状況、ひたむきに生きている姿が理解されてきた。学生達との話では、家族のことを話しているときにガイダさんが涙を見せた、お父さんが亡くなったことを思い出したようだ。心臓病を患っていたガイダさんのお父さんは空爆を受けている中の病院では十分な薬が無いため亡くなった。ガイダさんは将来、お医者さんになりたいと語った。	 
	「予防接種における日本の民間セクターと Gavi の協働の可能性」セミナー開催 Gavi ワクチンアライアンス、日本リザルツ、一般社団法人平和と健康の会主催のセミナー「予防接種における日本の民間セクターと Gavi の協働の可能性」を開催した。21 企業・団体より約 40 名の参加を得て、Gavi が実施する事業概要と調達動向、民間企業とのパートナーシップの現状について、Gavi マリアンジュ・サラカ・ヤオ専務理事、メリッサ・マラメ市場形成担当局長がプレゼンを行った。そのうえで、JICA 民間連携事業部の前原充宏次長のモデレートのもと、日本企業との連携機会の拡大について意見交換を行った。参加企業からは、Gavi の調達機能を担っている UNICEF やワクチン研究開発を支援するゲイツ財団と Gavi との役割分担の在り方や、十分なワクチン供給ができるインド支援の動向、質の高いワクチンを届けるためのコールドチェーン調達、今後の Gavi のワクチンの投入戦略、Gavi 支援卒業国へのフォローアップ等についての質問があった。その後、内閣官房（内閣府本府）において、セミナー全参加者と日本政府との意見交換会が行われた。衆議院議員の古屋範子公明党副代表（ワクチン予防議連会長代理兼幹事長）より開会のご挨拶をいただき、内閣官房国際感染症対策調整室の吉岡てつを室長、内閣官房健康・医療戦略室の大島一博次長、財務省主計局山崎翼主計官、外務省国際協力局竹若敬三審議員、同国際保健政策室の日下英司室長、厚生労働省山本尚子大臣官房審議員、山谷裕幸大臣官房国際課 国際協力室長、JICA 戸田隆夫人間開発部長、同民間連携事業部前原次長、	

	公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金（GHIT ファンド）鹿角契 CEO オ フィス戦略担当部長などにご参加・発言いただいた。UNRWA（国連パレスチナ難民救済事業機関）の清田明宏保健局長の司会のもと、日本の民間企業が Gavi のワクチン支援事業にどう関与し貢献できるのか、官民双方による活発な意見交換が行われ、ワクチン価格・コスト面や知的財産権の問題、Gavi の調達モデル、今後のワクチン開発に関する情報共有の必要性、コールドチェーンやシリンジ等に求められる日本と海外（途上国）での仕様・価格の違いなど、今後の課題も共有された。	
11月3日	ガザと釜石の子どもたちが一緒に凧揚げ パレスチナ自治区ガザから来た3人が、東日本大震災の被災者応援凧揚げに参加した。モハメド君（14歳）、ラワンさん（13歳）、ガイダさん（13歳）の3人は、釜石に到着した後野田武則市長を訪れ、平和と復興について意見交換を行った。その後、被災地に行き、当時の様子や釜石の復興を見学した。唐丹町の津波記憶石では、日常生活を一瞬で壊してしまった津波の恐ろしさを知り、子どもたちが涙する場面もあった。鶴住居地区学校建設工事現場では、日頃の避難訓練の成果によって子どもたちが皆逃げることができたというお話や、2019年ラグビーワールドカップへの取り組みと、スタジアム建設予定地などのお話を伺った。そして平田地区に行き、ガザの子どもたちを歓迎する住民の皆さんや近隣の少年野球チームの子供たちに迎えられ、凧作りの交流会と凧揚げ大会が開かれ、思い思いのメッセージをのせて作った凧が上空に揚げた。最後に釜石市体育協会の下村恵寿事務局長、公明党の谷合正明参議院議員、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のピエール・クレヘンバール事務局長、そして、同じく UNRWA の清田明宏保健局長よりご挨拶いただいた。	 
11月4日	ガザの子ども達が安倍総理に面会 ガザの子ども達が安倍総理に面会した。代表してラワンさんが、「前日に訪れた釜石で楽しく凧を揚げ、生まれて初めて恐怖を感じることなく子どもらしく遊ぶことができました」「私たちがガザの子どもたちは、戦争をしたいのではなく、平和が欲しいのです」とのスピーチを行った。その後多くの報道陣に囲まれながら、ガザの現状を訴えた。国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）のピエール・クレヘンビュール事務局長は、パレスチナ難民に対する日本の絶え間ない支援に感謝を述べた。	
	阪大微研理事長 山西弘一先生講演会に参加 前参議院議員の梅村聡先生（元・ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長）の勉強会に出席した。講師は阪大微生物病研究会理事長の山西弘一先生で、テーマは「わが国のワクチン開発事情」について。山西先生はワクチン研究の第一人者で、突発性麻疹ウィルスのワクチン開発に世界で初めて成功した方。人間の歴史はウィルス病との闘いであったとして、天然痘、狂犬病、ポリオ、エボラ出血熱、エイズ、インフルエンザ等とワクチン開発について解説され、その後世界のワクチン開発の外観と日本の現状について分かりやすくお話しされた。ワクチン開発・研究は自分の組織内で閉鎖的にやってもワクチンはできないので、オールジャパンでやっていく必要があるとの主旨だった。	
	ガザの子ども達を囲む会 立食パーティー「ガザのこども達を囲む会」が日本リザルツで開催された。6時半のパーティー開始時には廊	

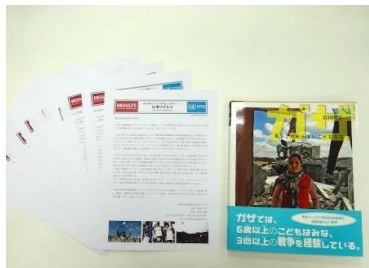
	下まで人が溢れかえり、約 150 名の人々が参加した。 逢沢一郎衆議院議員、外務省 国際協力局緊急・人道支援課長の廣田司氏、ワリード・アリ・シாம் パレスチナ大使、なども参加され、東日本大震災で被災された女性からは、ガザの子ども達へエールの言葉が送られた。 なお、ガザの子ども達の来日に際し、以下の通り寄付金のお願いを実施した。 招聘予定：ガザの子供 3 人と引率教師の計 4 名 招聘時期：11 月 1 日から 11 月 6 日（日本発着）、11 月 2 日から 3 日にかけて釜石を訪問 目標金額：200 万円（航空運賃（約 80 万円）、都内・釜石への交通費（約 40 万円）、日本での滞在費（約 30 万円）、その他諸経費（50 万円））	
11 月 4 日	第三回国際母子栄養改善議員連盟 衆議院第一議員会館で、第三回国際母子栄養改善議員連盟が開催された。国会議員の先生や省庁、国際機関、企業、NGO 等から会場に収まらない程の人々、約 90 名が参加し、大変活気のある会議となった。司会は栄養議連事務局長のあべ俊子衆議院議員が務めた。 塩崎恭久厚生労働大臣は、以前南スーダンで栄養問題の厳しさを目の当たりにした経験から、グローバル・ヘルス・ガバナンスの中で政府、経済界、市民社会、アカデミア、全てが連携し一丸となってこの栄養問題に取り組んでいかなければならないと発言された。 柴山昌彦総理大臣補佐官は、母子栄養改善のためには省庁の壁を超えた横断的な取り組みが必要になること、厚労省だけでなく、外務省や文科省、学界も巻き込む必要があることを力説された。 次に、アライアンス・フォーラム財団の原丈人代表理事が「スピリリナによるアフリカでの栄養不良改善の取り組み」と題した講演を行った。高栄養で、少ない資源でも成長し、アフリカにも原生するスピリリナを使った事業で、ザンビアにおいて現地の人々の自立をサポートしながら栄養改善を行う取り組みについて紹介された。 その後は、平林国彦ユニセフ代表から、国際母子栄養改善国家戦略タスクフォース分科会についての説明があった。国家戦略タスクフォースでは、効率的な議論を進めるため、協議会の下に「食料・栄養（Food and Nutrition Security）」と「保健・水と衛生（Nutrition and Water for Health）」の二つの分科会を設け、後者分科会のリーダーには東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授の渋谷健司氏に決まったことが発表された。 最後に、ビル＆メリンダゲイツ財団の Geoffrey Lamb 主席経済政治顧問から、ゲイツ財団の栄養分野への支援についてお話があり、非常に濃い一時間となった。	

11月5日	ガザの子ども達とディズニーランドに ガザの子どもたちとみんなで東京ディズニーランドへ行った。数日前、少し疲れた様子を見せていた子どもたちに、「もし疲れていたら、この日はホテルでゆっくりしてもいいんだよ」と伝えと、3人は思い切り首を横に振った。モハメド君はジェットコースターに乗りたい！と、スプラッシュマウンテンへ。 ガイダちゃん、ラワンちゃん、そしてラウィア先生は、メリーゴーランドやダンボの乗り物などを楽しんだ。みんなで「ミッキーのフィルハーマジック」。3Dで飛び出て見えるキャラクターに手を伸ばす子どもたち。最後に、「ガザが、一日も早く、子どもたちが子どもらしく安心して遊べる場所になってほしい」というラウィア先生の言葉が印象的だった。	
11月6日	ガザの子ども達が虎の門病院を見学 日本滞在最終日、ラウィア先生、ガイダさん、ラワンさん、モハメド君は、朝から虎の門病院の見学に行った。3人の将来の夢が“お医者様になること”だと知った白須が、「サンキューセミナー」講師を2回お願いした、東京大学大学院 医学系研究科 国際保健政策学教授の渋谷健司先生にお目にかかった機会に相談したところ、リザルツ事務所からも近くて歴史のある「虎の門病院」の大内尉義病院長にお話を通していただき、病院見学が実現した。渋谷先生は見学当日もお忙しい中駆けつけてくださった。到着すると、事務部次長の北澤将様をはじめ事務部の方々に温かく迎えられた。最初に会議室で大内病院長から直々に、虎の門という地名の由来や病院の歴史、診療科についてや、海外からの医学生の受け入れ体制などについてご説明いただいた。その後、手術着を着用し、慣れないマスクも付けて、シューズカバーとナイロンキャップもかぶり、手術室を見学した。3Dの映像でトレーニングされていたり、日本の先端医療の現場に触れることができ、みんな大興奮だった。手術室に続き、集中治療室、検査室、無菌室の入り口までを見学させていただいたが、お邪魔させていただく先々で、ご高名な先生方に説明いただき、ガザの子ども達は熱心に質問したりメモをとったりしていた。病院見学を終えた後は、浅草観光も行った。 ガザの子ども達が創価学会青年部と交流 ガザの子どもたちが、創価学会青年部の高校生4名と交流した。日本の学生が「あなたたちの夢は？」とたずねると、ラワンさん、モハメド君、ガイダさん、みんなそろって「ガザが平和になること」と答えた。けん玉をプレゼントされるなど、交流会は大変盛り上がった。	  
	ガザの子ども達が帰国 羽田発、エミレーツ航空のドバイ行き便でガザの子ども達が帰国する時間に近づき、女性陣はジャンボタクシーで羽田空港へ、男性陣は電車で移動した。モハメド君は初めての東京モノレールデビュー。空港の荷物検査の列で、最後のお別れ。 無事にドバイ行きフライトに乗れたかどうか、念のためスタッフが空港で待機したが、後で無事に出発し、ガザに帰国できたとの連絡があった。	

11月7日	国際連帯税の推進「ピケティ/グローバルタックス」シンポジウムに参加 「シンポジウム：ピケティ『21世紀の資本』とグローバル・タックス」に参加した。190人が集まり、予定していた配布資料が足りなくなるほどだった。このシンポジウムの主催は、グローバル連帯税フォーラムと民間税制調査会との「共催」だが、日本リザルツは「協賛」という形で関わった。内容は、グローバル・タックスの推進と日本の「格差型」税制の是正に向けた取り組みのコラボは結構難しかったが（グローバル連帯税から消費税の軽減税率問題まで）、スピーカーのみなさんの熱い問題提起と会場との討論で何とか乗り越えた。	
11月11日	つなみ募金 毎月恒例の街頭募金を行った。先週来日したパレスチナのガザの子ども達のニュース（安倍首相との面談の写真も入っている）と日本リザルツが事務局となっている UNRWA（国際連合パレスチナ難民救済事業機関）のパンフレットを配った。	
11月18日	「ビハインド・ザ・コーヴ」上映会 自民党本部で開催された「ビハインド・ザ・コーヴ」の上映会に参加した。2009年、和歌山県太地町で行われているイルカ追い込み漁にスポットを当てた、アメリカのドキュメンタリー映画「ザ・コーヴ」がアカデミー賞を取り話題になったが、八木景子監督による本作は、「ザ・コーヴ」がいかに嘘が多かったか、ひとつひとつ検証した。上映会には多くの議員の方も参加され、この問題に対する日本政府の関心の高さが伺えた。	
11月24日	第9回ポリオアドボカシーミーティングに参加 第9回ポリオアドボカシーミーティングが開催され、国際ロータリー日本事務局、一般社団法人 JIGH、UNICEF 東京事務所、世界の子どものワクチンを日本委員会(JCV)の方々と日本リザルツメンバーが出席した。 まずは各団体からの活動報告を行い、日本リザルツからは、11月2日に開催したセミナー「予防接種における日本の民間セクターとGaviの協働の可能性」の様子を共有した。JCVは、先日実施されたローカルヒーロー祭りでポリオ啓発の募金活動を行い、日本全国からローカルヒーローが総勢70団体も集結したイベントで、世界の子どもの健康を脅かすポリオの現状を知ってもらうために呼びかけたそうだ。	
	パンデミック緊急ファシリティに関する世界銀行セミナーに参加 世界銀行東京事務所にて開催されたセミナー「パンデミック緊急ファシリティ：感染症による緊急時対応のための新たな資金メカニズム」に参加した。 ムケシュ・チャウラ氏（世界銀行グループ保健・栄養・人口問題グローバルプラクティス部門長）によるプレゼンテーションでは PEF の設計趣旨と概要が説明され、早稲田大学勝間靖教授、ジョイセフ石井澄江代表理事がコメントした。勝間教授や石井氏をはじめ、セミナー参加者からは、PEF の革新性やその意義について評価しつつも、実施にお	

	ける疑問や想定される問題点等を指摘する声が出た。日本政府がどのように関与するのか、また日本の民間の保険会社が参入するのか等については特に言及がなかったが、今後も関心を集めそうである。
11月25日	「らぼーる」第5回事例勉強会 第5回事例勉強会が開催された。「らぼーる」の協力弁護士の先生方や面会交流支援者、有識者、関係者などが参加して、毎回熱い議論を繰り広げている。相談員の方々も慣れてきて、厚生労働省に提出した「事業計画書」にも「啓蒙活動」をあげているので、そろそろ外に出て啓蒙することと、勉強会に参加される専門家、有識者を増やす活動を始めることが決定した。 
11月29日 -30日	関西で「らぼーる」アドボカシー活動 京都の立命館大学の二宮周平先生主催の「面会交流支援団体フォーラム2015」に参加した。全国津々浦々から、面会交流を支援している14団体が集結し、経験交流を行った。「らぼーる」にも北は北海道から南は九州の方まで、お電話をいただくので、今回の全国の団体との出会いは大事にしていきたい。 翌30日は、大阪府母子寡婦福祉連合会、大阪府福祉部子ども室子ども支援課、兵庫県企画県民部男女家庭課・広聴室、兵庫県民総合センター等へ行き、アピール活動をしてきた。大阪府では、大阪府議会議員の西田薫先生が、兵庫県では、しま山清史先生がご一緒くださったので、大変心強く、加えて地元の協力者もいたので、効率よく回ることが出来た。 最後に明石市の泉市長にもお目にかかり、「らぼーるはどない？」と気さくにお話しくださったり、「出張相談なんかもやったらええ。親教育プログラムに力を入れたら？」などのアドバイスをいただいた。 

12月	
12月2日	第2回親教育プログラムリーフレット完成 第2回親教育プログラムのリーフレットが完成した。サブタイトルは充実した面会交流のために～。12月25日19時から補講も行う。その他、個別対応も行っている。
12月3日	リザルツ新聞第3号発行 11月初旬に来日したガザの子どもたちを取り上げた、「リザルツ新聞第2号～ガザから子どもたちがやってきた！特別号～」に続いて、第3号が完成した。今回は、ガザの子どもたちの報道特集。新聞、テレビ、ラジオなど、多くのメディアに取り上げられた。この新聞は、722名の国会議員の先生方皆さまで一人一人にお届けした。 
	朝日新聞朝刊に「らぼーる」の記事掲載 第4回の勉強会や、第1回親教育プログラムにも参加してくださった畑山敦子記者による記事が掲載された。フリーダイヤルの番号やHPのURLも紹介してくださったので相談件数もADRの問合せも増えた。
12月9日	千葉県柏市役所に「らぼーる」リーフレットを設置

	「らぼーる」運営スタッフが千葉県柏市役所に行き、市民課に「らぼーる」のリーフレット 700 枚を納品してきた。リーフレットは名刺サイズで小さいので、するりと落ちてしまわないように、また、整理しやすいように、離婚届用紙等の書式一式を収めるクリアファイルもトライアルでお使いいただくことを提案したところ、「すぐく助かります。じゃあこれは、お子さんがいらっしゃるご夫婦を確認してお渡しします」と大変喜んでいただいた。年明けから、市内 12 か所の出張所で配布をはじめていただけたとのこと。また、こども福祉課にもリーフレットの設置をお願いしたところ、4 つあるブースそれぞれに置いていただけることになった。 その後は、地元の方々と、市議会議員の 3 つの政党の先生方をお訪ねして、報告と現状の問題点や、子どもに及ぼす影響などについてお話をさせていただいた。	
12 月 10 日	「らぼーる」第 6 回事例勉強会 今回の事例勉強会は相談事例に基づき、有識者の方々から、たくさんのご意見を頂き、今まで以上に深い内容の事例勉強会となった。	
12 月 11 日	岩手県の全小学校に本を贈与 クラウドファンディングの資金で、清田明宏著「ガザ：戦争しか知らない子どもたち」を岩手県の全小学校 340 校に送ることができた。釜石の小学校には、先日ガザの子ども達と野田市長を訪問した際に一足先に本をお渡ししたが、これでようやく岩手県にある全ての小学校に本が行き渡る事になった。	
	つなみ募金 毎月恒例の街頭募金を行った。代表の白須も加わり、リザルツ葉書を配った。11 月にガザの子どもたちが訪問した虎ノ門病院の大内院長が通りかかれ、応援の言葉をいただいた。	
12 月 13 日	エルサレムよりガザ出張報告 日本リザルツでは、昨年ガザ地区で起きた戦闘によって負傷し、障がいを負ってしまった人たちが、適切なリハビリを受け、運動機能回復に取り組めるようにすること目的とした事業を行っている。ガザ地区にあるヘルスセンターに、リハビリ器具や運動器具を提供するため、リザルツスタッフが現地エルサレムに入った。本事業のパートナーは国連パレスチナ難民救済事業機（UNRWA）のエルサレム事務所（ガザ事業担当）。すでに、必要なリハビリ器具や運動器具の調達は終わり、UNRWA エルサレム事務所に併設された倉庫にて保管されている。これらは、UNRWA のトラックにてガザの各ヘルスセンターに運ばれる。しかしながら、物資をガザに運び入れることは国連といえど容易ではなく、当事業の必要器具についても、イスラエルからの承認を待っている状況である。	 

12月14日	日本リザルツ事務所にて、ALS に関する会合を開催 ALS(筋萎縮性側索硬化症)とは、脳からの命令を筋肉に伝える運動ニューロンが侵される病気で、いまだ原因は不明だが、治療としてALS の進行を遅らせる作用のある薬が使われている。会合には企業、関連省庁、ALS 協会の方々の他、ある分身ロボットを通してALS の患者さんも参加された。OriHime(オリヒメ)という名前のこのロボット、体は小さいが、カメラ、スピーカー、マイクを内蔵しており、周りの人と会話ができるだけでなく、首を動かして上下左右を見渡すこともできる。遠く離れた場所にいる人が、パソコンや専用機械の視線操作で文章を入力すると、オリヒメがその通りに話し、実際にその人に会っているような気分になる。ロボット開発者の吉藤健太郎さんも会合に参加した。 
12月17日	セミナー「感染症とワクチン・予防接種の役割～日本の民間セクターへの期待」開催 一般社団法人設立記念セミナー「感染症とワクチン・予防接種の役割～日本の民間セクターへの期待」をルポール麹町にて開催し、約150名の参加登録を得ることができた。日本政府より、大島一博内閣官房 健康・医療戦略室次長よりご挨拶を頂戴し、9月に閣議決定された「平和と健康の基本方針」に基づき、政府として保健分野に注力するとともに、民間との連携・対話を深めていきたい旨発言があった。基調講演として、セス・バークレー Gavi ワクチンアライアンス事務局長が登壇し、Gavi 事業と民間セクターとの連携について熱弁を振るった。基調講演2として、ルチカ・デイトゥー ストップ結核パートナーシップ事務局長が世界の結核ワクチン開発の現状と日本への期待について発表した。基調講演3として、渋谷健司 東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教室教授、(一社)ジェイ・アイ・ジー・エイチ (JIGH) 代表理事が登壇し、グローバルヘルスで求められる日本の役割、G7 サミット保健ワーキンググループでの議論について講演いただいた。 第2部では、「世界の HIV/AIDS 対策と日本の役割」と題し、AIDS 研究の第一人者である岩本愛吉先生(日本医療研究開発機構 (AMED) 科学技術 顧問、前日本エイズ学会理事長、前・東京大学医科学研究所教授)にご登壇いただき、講演「抗 HIV 薬の進歩に基づいた国内対策と国際連携」と題する基調講演をいただいた。AIDS 研究の最前線をご紹介いただくとともに、同分野における国際協力での日本の置かれた立ち位置について大変明快にご説明いただいた。会場からは、技術的な質問から、学生や若手研究者が今後どのように関わっていけるか等まで、幅広いコメントがあった。予定を超過し、3時間以上にわたるセミナーとなったが、多くの参加者より貴重なご意見をいただき、今後の活動にとって大変有意義な示唆を得ることができた会合となった。  
12月19日	「らぼーる」第2回親教育プログラムを実施 開業前に厚生労働省へ提出した企画書で、2016年3月末までに3回行うとしていた「親教育プログラム」の2回目を実施した。10月に実施した1回目のテーマは「共同養育を実現する親であるために」だった。今回は「充実した面会交流のために」。面会交流に焦点を当て、具体的で実践的なお話しをするようにした。実際に監護親をお呼びし、監護親としての立場での面会交流のタブーのお話しをしていただいた。

	また、子どもを中心に考えた離婚のビデオも上映し、参加者に面会交流の大切さへの理解を深めていただいた。「らぼーる」の知名度も上がってきたためか、広報活動をあまり行わなかったにもかかわらず参加者も増えて盛況だった。アンケートの結果や参加者からは、「早速使える」「大変参考になった」という感想を多くいただいた。
12月21日	第124回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会に出席 外務省にて開催された第124回 GII/IDI に関する外務省/NGO 懇談会に参加した。議題は先週16日のUHC国際会議及び17日のGF増資準備会合の報告、そして来年開かれるTICAD VIの進捗報告等だった。日本リザルツからも、11月4日に開催された「第3回国際母子栄養改善議員連盟」の報告を行った。

